第7グループ【子育て・教育分野】

提言書

みなとタウンフォーラム
第7グループ

子育て・教育分野

第7グループ［メンバー］

小田村　直昌　　河野　真祐　　境　静子
続　千津子　　藤島　千春　　三浦　昭子

※メンバーは五十音順

令和5（2023）年3月23日

提言にあたって

第7グループ【子育て・教育分野】

私たち第7グループでは、子育て・教育分野について、メンバーの関心や課題意識をもとに、「学校教育の充実」「保育・子育て支援サービスの充実」「子どもの健全な育成支援」の3つをテーマに選び、議論を重ねました。

近年、社会の多様化やICTの急速な発展などを背景に、更なる教育の質の向上が求められています。

また、共働きの増加や少子化、地域のつながりの希薄化、子育て家庭の孤立などにより、子育て支援の充実や子どもの健全な育成支援が求められるようになっています。

新型コロナウイルス感染症の拡大は、これらの社会変化や課題に一層の拍車をかけるものであり、私たちはこうした状況を踏まえ、提言の作成に当たりました。

「学校教育の充実」のテーマでは、港区独自の先進的な学びを展開することで一人ひとりの子どもの個性を伸ばし、伝統文化を大切にする生きる力を育むとともに、子どもたちがたくましさや優しさを持ち、安心して学校に通うことができるまちの実現を目指し、議論を行いました。

子どもたちが命の大切さを知り、互いを思いやる道徳感や倫理観を学習するだけでなく、大人が子どもに更に寄り添い、共に学び成長していくような教育を推進していくことができるよう、取組を考えました。

「保育・子育て支援サービスの充実」のテーマでは、誰もが安心して子育てできるよう、地域がつながり、港区独自の支援が行き渡るまちの実現を目指し、議論を行いました。

港区ならではの支援や助成の情報発信の強化、保育園・幼稚園の保育の質の向上に向けた取組、ITを活用した保育士・保護者の負担軽減について話し合い、悩みや不安を抱え、困っている保護者の声を受け止め、援助していくことができるよう、取組を考えました。

「子どもの健全な育成支援」のテーマでは、健康的で安心・安全に過ごせて互いに助け合うとともに、地域社会の中で港区の歴史文化に触れながら、子どもが個性を伸ばすことのできるまちの実現を目指し、議論を行いました。

大人が子どもの主体性を尊重することや、いじめ・ひきこもりを理解する働きかけを行うこと、地域との連携等により子どもが健康的で安全に居られる場所をつくる取組の推進について考えました。

一方で、保護者や学校、行政だけでは、私たちの掲げた提言を実現することはできません。地域、企業、NPOなどを含め、地域社会全体で、教育・子育てをサポートしていくことが重要であり、港区が掲げる参画と協働の理念を、一層推進していくことが必要だと考えています。

私たちは、この提言が港区基本計画に反映され、港区が、子どもたちが安心して学び、個性を伸ばしながら育つことができる教育環境を実現するとともに、地域全体で支え合いながら、誰もが心豊かに子育てができるまちになることを願っています。

提言の体系

	具体的な取組
【テーマ1】 学校教育の充実	● 命の大切さを再認識し、道徳教育・倫理教育を高め、コミュニケーション力を向上させることのできる教育を充実させる ● 子どもに影響を与える周囲の大人に対し、子どもへの理解を深めるための学びの機会を充実させる ● 生きる力を育み、高め、一人ひとりの個性を尊重し伸ばす能力開発を推進する
【テーマ2】 保育・子育て支援サービスの充実	● 安心して子育てできる港区ならではの支援や、助成に関する情報発信を強化する ● 区内の保育園・幼稚園の保育の質の向上のため、園の取組を共有していく ● 保育に集中できる環境にするために、ITなどを活用した業務の効率化を進め、保育士や保護者の負担軽減を図る
【テーマ3】 子どもの健全な育成支援	● 子どもの主体性を尊重するように、大人が柔軟に対応する ● いじめ・ひきこもりへの理解を深め、子どもの社会性を育み、支援が必要な家庭へのケアや地域での見守りを推進する ● 民間施設の活用や地域と連携を推進し、子どもの健康的で安全な居場所をつくる

テーマ
1

学校教育の充実

1　計画最終年度末（令和8年度末）における港区の将来像

（1）「港区独自の先進的な学びを展開することで一人ひとりの子どもの個性を伸ばすと共に、伝統文化を大切にする生きる力を育むまち」

（2）「地域や大人が道徳観や倫理観を教え、子どもたちがたくましさや優しさを持ち、安心して学校に通うことのできるまち」

伝統や文化の豊かな地域である一方、様々な国籍の外国人が居住し、多くの大使館や外国系企業などが立地するなど、国際色豊かでもある港区ならではの教育を推進し、子どもが主体的に学び、関係性を大切にし、一人ひとりの個性を尊重し合える社会の実現を目指す。

豊かな道徳観や倫理観を身に付け、安心して、のびのびと過ごすことのできるまちを目指す。

2　踏まえるべき社会変化

社会の多様化やICT環境の進歩による教育情報化の推進により、教育の質の向上が求められている。学力低下や格差などの課題を解決するためにも、子ども一人ひとりへのきめ細かい対応が必要である。

（1）求められる能力の変化

都市化や過疎化の進行、家族形態の変容、価値観やライフスタイルの多様化、グローバル化、デジタル化などの社会の多様性や時代変化によって、求められる能力が変化している。子どもたちがそれぞれの可能性を伸ばし、自ら考え、行動していく教育の必要性が高まっている。

（2）デジタル化

ICT環境が充実するなど教育のデジタル化が進み、さらに、新型コロナウイルス感染症の影響がその活用に一石を投じている（例：GIGAスクール、プログラミング教育、デジタル教科書の活用、オンライン授業など）。

（3）家庭や地域社会の教育力の変化

都市化や核家族化の進行等を背景に、家庭や地域社会の教育力が変化し、子どもの基本的な生活習慣の育成等の面で、地域社会を初めとする教育への模索が進んでいる。

（4）教員の不足

個人の価値観や趣味、ライフスタイルの変化等により職業や働き方が多様化しており、教員の対応が煩雑化し、教員不足を起因している。

(5) 家庭環境の変化

家庭環境や取り巻く状況の変化によって、家庭背景に根差した学力格差も生まれていると感じる。

3　実現に向けた課題

(1) 子どもに道徳観・倫理観を身に付けさせる教育の充実が必要である。

①道徳観や倫理観習得の教育が足りない。

②社会性や対人コミュニケーション能力等が不足している。

③伝統文化を大切にする教育が重要である。

④国語力（読解、語彙、表現力、読書など）を向上させる国語教育が今後、ますます求められる。

(2) 大人の価値観が多様化していることへの深い理解が必要である。

①多様性を尊重する理解が更に必要である。

②大人（保護者・先生など）への啓発も含め、子どもと一緒に学び続ける必要性がある。

(3) 個性を伸ばす能力開発の機会と場が必要である。

①体験・探求学習など主体的な学びを育む機会の重要性を認識する必要がある。

②ICTを活用した教育を充実していくことが今後、ますます求められる。

③支援を要する子どもの増加傾向に対応する必要がある。

4　施策の方向性

(1) 命の大切さを再認識し、道徳教育・倫理教育を高め、コミュニケーション力を向上させることのできる教育を充実させる。

(2) 子どもに影響を与える周囲の大人に対し、子どもへの理解を深めるための学びの機会を充実させる。

(3) 生きる力や努力の大切さを育み、高め、一人ひとりの個性を尊重し伸ばす能力開発を推進する。

5　具体的な取組

(1) 命の大切さを再認識し、道徳教育・倫理教育を高め、コミュニケーション力を向上させることのできる教育を充実させる。

①教えることの本質を再認識したうえで、道徳倫理・国語・コミュニケーション等について様々な教育活動の中で学ぶ機会を増やす。

②子ども同士で主体的に話し合い、ともに理解し合うことができるよう、道徳倫理・国語・コミュニケーション等について様々な教育活動の中で学ぶ機会を増やす。

③これらの取組の充実を図っていくため、教員に対して研修試験等を行う。

④国語教育の更なる強化をしていく（読解、語彙、表現力、読書など）。

(2) 子どもに影響を与える周囲の大人に対し、子どもへの理解を深めるための学びの機会を充実させる。

①大人一人ひとりがゆとりをもって子どもに接することができるよう、教員の働き方改革を推進し、個の資質能力の向上を図るための時間を確保することで、ゆとりをもった指導の実現を図る。

②保護者と子どもが学校行事などの機会に、更なる交流を通して理解が深まるよう、保護者が参加しやすい時間設定など、環境を工夫していく。

③教員の学ぶ意識を醸成し、機会や時間を増やす（研修・試験・講演参加等）。

(3) 生きる力を育み、高め、一人ひとりの個性を尊重し伸ばす能力開発を推進する。

①子どもの能力、個性を活かすため、授業の単元や内容によっての習熟度別学習を更に推進する。

②校外学習、協働学習、出前事業などにより楽しく取り組めるような授業を増やす。

③子ども同士での話し合いやディスカッションを中心とした主体的対話的に学ぶことのできる授業を充実していく。

④将来への希望や夢への実現のため、見通しをもたせるキャリア教育を充実させる。

⑤支援を要する子どもの増加傾向に対応し、教員の研修や、支援員の更なる増加・連携をする。

6　参画と協働の推進

(1) さまざまな経験を持つ地域の人が教育をサポートする。

①近隣企業や企業OB・OG、大学生、大使館、寺社、私学などと協力した出前事業や校外学習、交流機会を充実させ、子どもの視野を広げ、豊かな感受性を育む。

(2) 地域社会全体での学校教育を推進する。

①地域社会全体で地域の教育力の向上を図るため、学校と地域（町会・自治会、企業など）の連携・協働を推進する。

②子どもに更に寄り添い、共に学び成長していくような教育を推進する。

(3) 保護者や学校に近い人以外の意見や考えを聞くことができる機会を増やし広報･宣伝を徹底してもらう。

①子どもの可能性や価値観などを広げるため、保護者が先生はもとより地域の方やあらゆる分野の専門家等と意見を交わす機会を創出し、子どもが様々な物事の興味・関心を持ちやすい環境を作る。

テーマ
2

保育・子育て支援サービスの充実

1　計画最終年度末（令和8年度末）における港区の将来像

「誰もが安心して子育てできるよう、地域がつながり、港区ならではの支援がいき渡るまち」

悩みや不安を抱え、困っているときに自ら助けの声をあげることができ、地域でお互いに支え合い・助け合うことができるまちを目指す。

港区で受けることができる保育・子育て支援がすべての人にいき渡るよう、行政からの十分な情報の発信や、地域と連携して支えあう子育てができるまちを目指す。

2　踏まえるべき社会変化

共働きの増加、情報過多、少子化などにより、子育て支援の充実や支援の多様性が求められている。

地域のつながりが希薄化し、子育てが孤立している。

(1) 共働きの増加

家族のあり方や働き方の変化、女性の就労、ワーク・ライフ・バランスの変化、価値観やライフスタイルの多様化などさまざまな要因によって、共働きが増加している。

(2) 情報過多

スマートフォンやタブレット、SNSなどの普及によってさまざまな情報が飛び交っている。

(3) 少子化

子育て家庭を取り巻く状況や家族の形態も大きく変化するとともに多様化し、非婚、晩婚化など、出生率低下などが少子化に影響を与えていると考えられている。

(4) 地域のつながりの希薄化

近所付き合いが希薄化し、日常的な地域における交流の機会が減少している。

(5) 子育て家庭の孤立

都市化や核家族化、地域の人間関係の希薄化等による子育て中の親の育児への不安感や、負担感の増大によって、子育て家庭の孤立化が進む。

(6) 高齢化及び高齢者の孤立

高齢化が進むとともに、高齢者の孤立化が懸念される。

3　実現に向けた課題

(1) 子育ての悩みを相談できる場が十分でない。

①行政支援をすべての人（特に情報弱者）に発信するための発信方法、工夫が必要である。

②子どもの発達など個別の悩みについて相談できる窓口サービスを充実させる必要がある。

(2) 保育内容をより充実させる必要がある。

①区内の保育園の質の向上を図るため、公立と私立の連携の必要がある。

②遊びを通した学ぶ機会が十分でない。

(3) 家庭・保育施設・地域を結びつけるイベントが少ない。

(4) 保育者の自己研鑽・教材準備・打ち合わせに十分時間が取れていない。

4　施策の方向性

(1) 安心して子育てできる港区ならではの支援や、助成に関する情報発信を強化する。

(2) 区内の保育園・幼稚園の保育の質の向上のため、園の取組を共有していく。

(3) 保育に集中できる環境にするために、ITなどを活用した業務の効率化を進め、保育士や保護者の負担軽減を図る。

5　具体的な取組

(1) 安心して子育てできる港区ならではの支援や、助成に関する情報発信を強化する。

①悩みや不安を抱え困っている人に届くよう、SNSなどを活用し、発信力を強化する。

②子育て世代への発信だけでなく、地域で子育てを支えられるよう、地域にきちんと情報を落としていく。

(2) 区内の保育園・幼稚園の保育の質の向上のため、園の取組を共有していく。

①保育園・幼稚園それぞれが、保育の質を向上できるよう、保育内容の見える化や共有に加え、交流機会を増やす取組を進める。

②認可外施設に対して、必要な指導・監督を行う。

③病児、病後児保育などの受入れを充実させる。

(3) 保育に集中できる環境にするために、ITなどを活用した業務の効率化を進め、保育士や保護者の負担軽減を図る。

①保育士・幼稚園教諭や保護者の負担軽減のため、ITなどを活用する。

②港区独自の手厚い保育士の配置基準を続ける。

6　参画と協働の推進

(1) 地域団体やNPOなどの地域と連携した子育てを推進する。

①地域とつながる機会を多く作っていくため、地域団体やNPOなどを各地区総合支所間でつなげ、保護者と子どもとの行事を地域で増やしていく。

②地域で保育・子育てに参加する機会をつくるため、それぞれの分野（元保育士など）のプロや特技を生かす取組を進める。

③地域全体で子育てを支えていくため、地域のボランティアの方などに子どもを預けるなどの取組を進める。

テーマ
3

子どもの健全な育成支援

1　計画最終年度末（令和8年度末）における港区の将来像

（1）「子育て家庭が安心して暮らせるよう、健康的で安心・安全に過ごせて助け合うまち」

（2）「地域社会の中で港区ならではの歴史文化に触れ、子どもが個性を伸ばせるまち」

すべての家庭が安心して子育てができ、子どもが安全に明るく健康に成長できるよう、必要なときに行政支援や地域の助けを受けることのできる助け合いのまちを目指す。地域社会の中で港区ならではの歴史文化に触れ、お互いの個性を尊重し認め合い、その個性を伸ばすことのできるまちを目指す。

2　踏まえるべき社会変化

共働き世帯の増加や地域のつながりの希薄化、新型コロナウイルス感染症の感染拡大等により、子育て家庭が孤立しやすく、価値観や生活の多様化により教育格差も起こりやすい。

（1）共働きの増加

家族のあり方や働き方の変化、女性の就労、ワーク・ライフ・バランスの変化、価値観やライフスタイルの多様化などさまざまな要因によって、共働きが増加している。

（2）地域のつながりの希薄化

近所付き合いが希薄化し、日常的な地域における交流の機会が減少している。

（3）子育て家庭の孤立

都市化や核家族化、地域の人間関係の希薄化等による子育て中の親の育児への不安感や、負担感の増大によって、子育て家庭の孤立化が進む。

（4）家庭環境を取り巻く状況の変化

家庭環境を取り巻く状況の変化により、教育の格差が生まれる場合がある。

3　実現に向けた課題

(1) 大人の子どもへの理解が十分でない。

①大人が子どもを深く理解し、子どもの思いに寄り添う必要がある。

②乳幼児時期の身体的、精神的、感情的成長の重要さの理解が十分でない。

(2) いじめ・ひきこもりへの理解や対応が十分でない。

①子どもの社会性が損なわれている。

②いじめの早期発見・早期対応の体制や、子どものいじめへの理解が十分でない。

③親子ともにひきこもりになっている家庭への支援が十分でない。

④保護者が相談できる相談窓口が知られていない。

(3) 子どもの居場所を拡充する必要がある。

①子どもが安心して遊べる場として、既存の公園や民間ビルの公開空地等を十分に活用できていない。

②地域の連携が薄い。

4　施策の方向性

(1) 子どもの主体性を理解・尊重するように、大人が柔軟に対応する。

(2) いじめ・ひきこもりへの理解を深め、子どもの社会性を育み、支援が必要な家庭へのケアや地域での見守りを推進する。

(3) 民間施設の活用や地域と連携を推進し、子どもの健康的で安全な居場所をつくる。

5　具体的な取組

(1) 子どもの主体性を理解・尊重するように、大人が柔軟に対応する。

①大人の価値観を柔軟にするため、各地区総合支所で大人の勉強会や研修会などを開催する。

②子どもの個性を理解する働きかけを進めていくため、大人（保護者・先生・地域住民等）と子どもとのミーティングの場をつくる。

(2) いじめ・ひきこもりへの理解を深め、子どもの社会性を育み、支援が必要な家庭へのケアや地域での見守りを推進する。

①いじめ・ひきこもりを早期発見するため、学校や地域でいじめ・ひきこもりへの理解を深める機会を作る。

②区の支援につなげやすくするため、いじめ・ひきこもりを抱える家族や本人が相談しやすい窓口を設置する。

③地域の青少年育成委員や民生委員に気軽に相談できるよう、情報発信していく。

④子どもの社会性を育むため、学校でいじめについて考える授業の充実や、いじめについて考える日・週間を今以上に設ける。

⑤支援が必要な家庭へのケアを進めていくため、ひきこもり等に関する親子への調査を行う。

(3) 民間施設の活用や地域と連携を推進し、子どもの健康的で安全な居場所をつくる。

①学校や保育園、地域で空いているスペース（寺社、公園、公開空地など）を活用し、子ども同士で交流する機会を増やし、時代にあった仕組みを検討する。

②子どもの健康的で安全な居場所を作っていくため、定年後の保育士や一度引退した保育士などが、地域での子育てに参加できる仕組みを作る。

6　参画と協働の推進

(1) 地域と連携し見守り･子育てをする。

①地域住民、お店などが子どもと関わる機会をつくり、地域で連携して子育てをする。

②地域のイベントなどで、地域住民の方に子どものことを知る機会を作る。

③地域のイベントなどを、メールマガジン等を活用して、住民が調べなくとも情報を入手できるようにする。

④いじめ・ひきこもりを早期発見するため、地域で見守りができる取組を行う。

開催経過

回数	開催日時	内容
第1回	令和4年10月6日（木） 18時30分～20時30分	• 事務局紹介 • グループ会議の進め方について • 分野における現状と課題について • 検討テーマの選定 • リーダー、サブリーダーの選出
第2回	令和4年10月20日（木） 18時30分～20時35分	• 第1回グループ会議の振り返り • 検討テーマ「学校教育の充実」に関する議論 将来像（めざすまちの姿）と社会変化の検討 実現に向けた課題と施策の方向性 具体的な取組と区民参画の検討
第3回	令和4年10月27日（木） 18時30分～20時10分	• 第2回グループ会議の振り返り • 検討テーマ「保育・子育て支援サービスの充実」に関する議論 将来像（めざすまちの姿）と社会変化の検討 実現に向けた課題と施策の方向性 具体的な取組と区民参画の検討
第4回	令和4年11月10日（木） 18時30分～20時40分	• 第3回グループ会議の振り返り • 検討テーマ「子どもの健全な育成支援」に関する議論 将来像（めざすまちの姿）と社会変化の検討 実現に向けた課題と施策の方向性 具体的な取組と区民参画の検討
第5回	令和4年12月1日（木） 18時30分～20時30分	• 第2回～4回目の内容確認について • まとめ方の説明 • 提言内容のブラッシュアップ
第6回	令和4年12月15日（木） 18時30分～20時30分	• 第5回目の内容確認について • まとめ方の説明 • 提言内容のブラッシュアップ
第7回	令和5年1月12日（木） 18時30分～20時50分	• 提言書（案）について
第8回	令和5年1月26日（木） 18時26分～20時45分	• 提言書（案）について • 提言式について

提言の概要

第 7 グループ
子育て・教育分野

テーマ１　学校教育の充実
テーマ２　保育・子育て支援サービスの充実
テーマ３　子どもの健全な育成支援

みなとタウンフォーラム

令和5年3月23日

テーマ 01

学校教育の充実

第 7 グループ
子育て・教育分野

将来像 FUTURE

・港区独自の先進的な学びを展開することで一人ひとりの子どもの個性を伸ばすと共に、伝統文化を大切にする生きる力を育むまち
・地域や大人が道徳観や倫理観を教え、子どもたちがたくましさや優しさを持ち、安心して学校に通うことのできるまち

社会変化

○求められる能力の変化
○デジタル化
○家庭や地域社会の教育力の変化
○教員の不足　○家庭環境の変化

方向性

命の大切さを再認識し、道徳教育・倫理教育を高め、コミュニケーション力を向上させることのできる教育を充実

子どもに影響を与える周囲の大人に対し、子どもへの理解を深めるための学びの機会を充実させる。

生きる力を育み、高め、一人ひとりの個性を尊重し伸ばす能力開発を推進

取組

① 教えることの本質を再認識したうえで、道徳倫理・国語・コミュニケーション等について様々な教育活動の中で学ぶ機会を増やす。
② 子ども同士で主体的に話し合い、ともに理解し合うことができるよう、道徳倫理・国語・コミュニケーション等について様々な教育活動の中で学ぶ機会を増やす。
③ これらの取組の充実を図っていくため、教員に対して研修試験等を行う。
など

① 大人一人ひとりがゆとりをもって子どもに接することができるよう、教員の働き方改革を推進し、個の資質能力の向上を図るための時間を確保することで、ゆとりをもった指導の実現を図る。
② 保護者と子どもが学校行事などの機会に、更なる交流を通して理解が深まるよう、保護者が参加しやすい時間設定など、環境を工夫していく。
など

① 子どもの能力、個性を活かすため、授業の単元や内容によっての習熟度別学習を更に推進する。
② 校外学習、協働学習、出前事業などにより楽しく取り組めるような授業を増やす。
③ 子ども同士での話し合いやディスカッションを中心とした主体的対話的に学ぶことのできる授業を充実していく。
④ 将来への希望や夢への実現のため、見通しをもたせるキャリア教育を充実させる。
など

参画と協働

●さまざまな経験を持つ地域の人が教育をサポートする
●地域社会全体での学校教育を推進する
●保護者や学校に関係や繋がりのある人以外の意見や考えを聞くことができる機会を増やし、広報・宣伝を徹底する

テーマ 02

保育・子育て支援サービスの充実

第 7 グループ
子育て・教育分野

将来像 FUTURE	誰もが安心して子育てできるよう、地域がつながり、港区ならではの支援がいき渡るまち	社会変化	○共働きの増加 ○情報過多 ○少子化 ○地域のつながりの希薄化 ○子育て家庭の孤立 ○高齢化及び高齢者の孤立
方向性	安心して子育てできる港区ならではの支援や、助成に関する情報発信を強化	区内の保育園・幼稚園の保育の質の向上のため、園の取組を共有	保育に集中できる環境にするために、ITなどを活用した業務の効率化を進め、保育士や保護者の負担軽減を図る
取組	① 悩みや不安を抱え困っている人に届くよう、SNSなどを活用し、発信力を強化する。 ② 子育て世代への発信だけでなく、地域で子育てを支えられるよう、地域にきちんと情報を落としていく。	① 保育園・幼稚園それぞれが、保育の質を向上できるよう、保育内容の見える化や共有に加え、交流機会を増やす取組を進める。 ② 認可外施設に対して、必要な指導・監督を行う。 ③ 病児、病後児保育などの受入れを充実させる。	① 保育士・幼稚園教諭や保護者の負担軽減のため、ITなどを活用する。 ② 港区独自の手厚い保育士の配置基準を続ける。
参画と協働	●地域団体やNPOなどの地域と連携した子育てを推進する		

テーマ 03

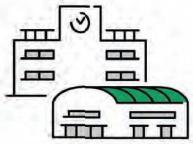
子どもの健全な育成支援

第 7 グループ
子育て・教育分野

将来像 FUTURE	・子育て家庭が安心して暮らせるよう、健康的で安心・安全に過ごせて助け合うまち ・地域社会の中で港区ならではの歴史文化に触れ、子どもが個性を伸ばせるまち	社会変化	○共働きの増加 ○地域のつながりの希薄化 ○子育て家庭の孤立 ○家庭環境を取り巻く状況の変化
方向性	子どもの主体性を理解・尊重するように、大人が柔軟に対応する。	いじめ・ひきこもりへの理解を深め、子どもの社会性を育み、支援が必要な家庭へのケアや地域での見守りを推進	民間施設の活用や地域と連携を推進し、子どもの健康的で安全な居場所をつくる。
取組	① 大人の価値観を柔軟にするため、各地区総合支所で大人の勉強会や研修会などを開催する。 ② 子どもの個性を理解する働きかけを進めていくため、大人（保護者・先生・地域住民等）と子どもとのミーティングの場をつくる。	① いじめ・ひきこもりを早期発見するため、学校や地域でいじめ・ひきこもりへの理解を深める機会を作る。 ② 区の支援につなげやすくするため、いじめ・ひきこもりを抱える家族や本人が相談しやすい窓口を設置する。 ③ 地域の青少年育成委員や民生委員に気軽に相談できるよう、情報発信していく。 など	① 学校や保育園、地域で空いているスペース（寺社、公園、公開空地など）を活用し、子ども同士で交流する機会を増やし、時代にあった仕組みを検討する。 ② 子どもの健康的で安全な居場所を作っていくため、定年後の保育士や引退した保育士などが、地域での子育てに参加できる仕組みを作る。
参画と協働	●地域と連携し見守り・子育てをする		

まとめ

この提言が港区基本計画に反映されて・・・



子どもたちが安心して学び、

個性を伸ばしながら育つことができる教育環境を実現するとともに、

地域全体で支え合いながら、誰もが心豊かに子育てできるまち

になることを願っています。

学校教育の充実

保育・子育て支援
サービスの充実

子どもの健全な
育成支援

みなとタウンフォーラム

会議録

みなとタウンフォーラム
子育て・教育グループ（第７グループ）

会議録（第１回）

■開催日時・場所・出席者

日　時　：令和４年 10 月６日（木）18 時 30 分～20 時 30 分
会　場　：港区役所９階　912 会議室
メンバー：７名（３名欠席）　（内訳：参集で参加５名　オンラインで参加２名）
事務局　：対応部門関係課長３名（子ども家庭課長、学務課長、教育指導担当課長）、企画課グループ担当２名、サポートメンバー３名、委託事業者３名

■次第

（ 開 会 ）
1　事務局紹介
2　グループ会議の進め方について
3　分野における現状と課題について
4　検討テーマの選定
5　リーダー、サブリーダーの選出
6　その他
（ 閉 会 ）

■配付資料

資料番号	資料名
1	事務局名簿
2	グループ会議の検討スケジュール
3	提言の構成について
3－2	提言の取りまとめイメージ
3－3	前回みなとタウンフォーラム提言書
4	検討希望テーマ集計結果
5	リーダー、サブリーダーの役割について

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画・港区実施計画

■会議要旨

（開会）

事務局より、第１回グループ会議開催にあたっての挨拶及び開会宣言を行った。

１　事務局紹介

事務局より、配布資料１に基づき、事務局メンバーの紹介を行った。

２　グループ会議の進め方について

〇検討スケジュール

事務局より、配布資料２に基づき、活動日程や内容について説明を行った。また、意見が提言として反映されるように、忌憚のない意見をお願いしたい旨の説明を行った。その後、会議の約束として、参加者が発言しやすい雰囲気、明るく楽しく、フラットでフランクな場となるよう説明があった。今日のゴールはテーマ決め、話し合ってお互いを理解していきたい。

〇提言の構成

事務局より、配布資料３、３－２、３－３に基づき、提言の構成について説明を行った。進め方として、まず先に将来像を踏まえ、そこから現状の課題を出し、具体的にどういった取り組みができるかどうかを考えていくという流れで進めていきたい旨を説明した。

３　分野における現状と課題について

関係課長より、港区基本計画に基づき、子育て・教育に関連する施策や取組について概要の説明を行った。子ども家庭課長が政策 15 及び 17（幼稚園関係は除く。）、学務課長が政策 16 及び 17（幼稚園関係）の説明を行った。

（主な意見等）

参加者：待機児童が０となってきた件について。逆に定員・先生が余ってしまっているが、今後区として空きをどのように活用していくのか。

事務局：需要に応じて、定員を絞ることを想定している。待機児童の解消のために設置した港区独自の保育室を段階的に閉鎖していく。また、小規模な施設などは３歳を迎えた子どもを他園にシフトさせることも検討していく。

事務局：人口動向をみると、全国的には少子高齢化であるが、港区は一時的にコロナ禍で減少しているものの、今後、再び増えていく予測をしている。そのあたりも踏まえて検討していく必要がある。

参加者：結婚や出生数が減っている。区立幼稚園も定員の 60%しか園児がいない。保育園も０～２歳は子どもがいるが、３歳以上は空きが目立つ。公立幼稚園を認定こども園へ移行するのか、そのままにするのか。また、暫定保育室の閉鎖という話があったが、その土地は区有地なのか、どうするのか。

事務局：保育室の土地は区有地。閉鎖後は、高齢者施設や区民共同スペース等ニーズに応じて転用する。

４　検討テーマの選定について

事務局より、配布資料４に基づき、参加者へ事前に調査した検討希望テーマの集計結果について説明を行った。集計結果としては、多い順に、「子どもの健全な育成支援の推進」、次いで「保育・子育て支援サービスの充実」、「学校教育の充実」となった。

集計結果を踏まえて、検討テーマについて議論が行われた。

（主な意見等）

〇学校教育について

参加者：子どもから大人に成長するにあたってのモラルの欠如が問題となっている。また、国語や人権の教育に力を入れていく必要がある。成長の過程を大事にしていきたい。

参加者：まず国語に力を入れるべき。国語を学ばないと英語学習に活用できない。道徳教育も重要。港区は外国人が多いため、その中で自分のアイデンティティを大事にしていく必要がある。また、虐待やいじめはされる側でなくする側への問題意識を持つ必要がある。

参加者：英語教育がどうあるべきかも港区として考えていく必要がある。

参加者：道徳教育やいじめ・ひきこもりといった問題を掘り下げていきたい。

参加者：人権・いじめ・モラルの問題を考えていきたい。また、英語を学ぶ前にまず母国語に力を入れていきたい。施設によっては英語ばかり使うところもある。英語教育の過熱をおさえてほしい。

参加者：多様化する社会の中で、どのような考え方が大事なのかが非常に難しくなってきている。価値観の違いや多様性について考えていきたい。

参加者：引きこもりや不登校といった問題がある中で、多様性に対応できる教育が必要である。また、コミュニケーションをとる教育を大事にしていきたい。

参加者：競争力を持った子どもを育てたい。探求型学習や個を尊重した教育に関心がある。

〇保育･子育て支援サービスの充実

参加者：保育園と幼稚園の繋がりや、就学前の教育に着目していきたい。認定こども園化など、どのように施設を運営していくかに関心がある。

参加者：保護者の支援に関心がある。保護者が一人で悩むのではなく、子育てに関する悩みを相談できるような体制がほしい。

参加者：地域との連携に関心がある。子育て支援サービスをどのように拡充していくか考えていきたい。

参加者：子育ての悩みには、情報交換レベルで済む話もあれば、個別に相談したいこともある。相談窓口はなかなか予約が取れないこともあるため、詳しい窓口が拡充されると良いと思う。

参加者：子育てに関する悩みがあっても、電話がなかなか繋がらなく、ホームページを見てもよく分からないことがある。ＳＮＳを活用するなどして、若い保護者にもアピールしていきたい。

参加者：地域のＮＰＯ連携に関心がある。

参加者：保育士への充実したケアや、地域の人々が保育に参加できるような体制を構築することが必要なのではないか。

○子どもの健全育成支援について

参加者：地域からの支援が必要。ＮＰＯや行政委員など、今後どう支援をしていく必要があるのか考えていきたい。また、学童や放課後クラブなど、子どもの居場所づくりについて検討していきたい。

参加者：子どもの居場所づくりに関心がある。色々な選択肢がある中で、それぞれの施設がどのような役割を果たしているのかを改めて整理していきたい。

参加者：若者の支援も大事にしたい。また、行事やお祭りといった地域の催しを通して、高齢者と子どもの交流を活性化させていきたい。

参加者：企業や公共機関との連携も考えていきたい。

5　リーダー、サブリーダーの選出について

事務局より、リーダー、サブリーダーの役割について説明があった。その後、グループ会議運営にあたってのリーダー、サブリーダーがメンバーの互選により選出された。リーダー、サブリーダーより、就任挨拶が行われた。

（主な意見等）

参加者：せっかくの機会なので、リーダーをやらせていただきたい。

参加者：サブリーダーに選んでいただいた。精一杯頑張っていきたい。

6　その他

リーダー、サブリーダーを決めた後、参加者から一人ずつ感想を話した。その後、事務局より次回の開催日程等の確認を行い、次回の会議では「学校教育の充実」について、テーマを深掘りしていくことが確認された。

（閉会）

事務局が第１回グループ会議の閉会を告げ、終了。

以上

子育て・教育グループ（第７グループ）

会議録（第２回）

■開催日時・場所・出席者

日　時　：令和４年 10 月 20 日（木）18 時 30 分～20 時 35 分

会　場　：港区役所９階　913 会議室

メンバー：６名（２名欠席）　（内訳：参集で参加５名　オンラインで参加１名）

事務局　：対応部門関係課長４名（子ども家庭課長、学務課長、学校施設担当課長、教育指導担当課長）、企画課グループ担当２名、サポートメンバー３名、委託事業者３名

■次第

（ 開 会 ）

１　前回（第１回グループ会議）の振り返り

２　第２回グループ会議の進め方について

３　検討テーマに関する議論

・将来像（めざすまちの姿）と社会変化の検討

・実現に向けた課題と施策の方向性

・具体的な取組と区民参画の検討

４　その他

（ 閉 会 ）

■配付資料

資料番号	資料名
1	第１回グループ会議　会議録
2	第２回グループ会議の進め方
3	提言の構成について（様式）

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画・港区実施計画

■会議要旨

（開会）

リーダーより、第２回グループ会議の開会宣言を行った。

1　前回（第１回グループ会議）の振り返り

事務局より、配布資料１に基づき、前回（第１回グループ会議）の振り返りを行った。

2　第２回グループ会議の進め方について

事務局より、配布資料２に基づき、進行内容、目的、全体スケジュールの説明を行った。

参加者同士（３名×２グループ）で、前回を振り返り、気づいたことの共有を行った。

事務局より、配布資料３に基づき、提言の構成やバックキャスト方式について説明を行った。

3　検討テーマに関する議論

（１）テーマ分類・課題検討

事務局：今日の検討テーマは「学校教育の充実」。前回の議論内容を「人権」、「国際理解」、「これからの学び」の３テーマに整理した。

参加者：テーマ分けに少し違和感がある。国語教育、道徳教育の観点が薄い。「国際理解」の中に自国文化が含まれるかどうかも気になる。

事務局：違和感を共有いただきとても助かる。今後も積極的に意見をいただきたい。今日は、「踏まえるべき社会変化」⇒「港区の将来像」⇒「課題」⇒「具体的な取組」⇒「区民の参画と協働の推進」の順番で議論したい。まず、区から現状をご説明する。

事務局：３テーマに沿って、ご説明する。「人権（道徳）」：港区ではあえて「徳・知・体」という順番で「徳」を重視している。ゲストティーチャーを入れた授業等も実施している。「モラルの欠如」という話があったが、ＧＩＧＡスクール構想で配られたタブレット端末の利用状況においても、モラルの欠如が見える。いたずらで友達の PW を聞き出してログインしてしまう例もある。こうしたことがなぜダメなのかを考える学習をしていきたい。今後の課題と考えている。タブレットの利活用等においては、子どもと保護者の認識にもずれがある。情報モラルのアンケートを実施して、保護者に啓発するイベントも実施する予定。「国際理解」：母国語（国語）教育が大切と認識している。国語は授業時間数も多い。タブレットの利用で文字を書く習慣がなくなることを防ぐため、低学年は書くことを中心とし、共有等にタブレットを活用している。国際化等を通じて、コミュニケーション能力育成の素地を作っている。自国文化が分からないと外国のことも分からない。大使館と連動して、日本の良さを学びながら外国を知る活動をしている。探求学習：ただ教えて終わりではなく、自分で考えて自分なりに活かす方法を考えさせている。例えば、どんなツールが必要か、自分で考えさせる。

参加者：「人権」がひとくくりで良いのか。「人権」・「国際理解」のくくりにはやはり違和感がある。「道徳」は「人権」とは少し異なるのではないか。大使館と提携等表面的なことではなく、もっと深いところを考えたい。

参加者：国際理解と言ってもくくりが大きすぎる。英語教育、大使館連携だけが国際理解ではない。もう少しテーマを絞り具体的なくくりの方が良い。

事務局：先にテーマ分けを議論する。ほかの方の意見はどうか。

参加者：ここは「港区にどうなってほしいか」を議論する場と思っている。大きな方向性を示すべきだと考えている。具体的な項目は色々あると思うが、枠自体は大きいもので良いと思う。「人権」≒ダイバーシティ、相互理解。「国際理解」≒相手を理解するコミュニケーション能力。道徳もこの中に含まれるのではないか。「競争力」≒世の中の役に立てる人間、そのための能力を育てるには、探求学習が必要だと思っている。

参加者：「人権」は強い言葉。個性の尊重、「国際理解」は相互理解がベースにある。日本語教育・外国語教育のバランスも大事。「人権」と「国際理解」は重複する部分もある。

参加者：公立学校、私立学校の両方が対象か？

事務局：基本的には公立学校。

参加者：３テーマはレベル感も異なり、同列にするのは難しいのではないか。重複もある。綺麗に分けることは難しいのではないか。

参加者：具体的なテーマとしては、「外国語教育と国語教育」、「道徳観（モラル）とコミュニケーション」、「競争社会での対応」、「ＩＴ教育（タブレットの活用）」が良いのではないか。

参加者：ダイバーシティは大事。みんなにマイナス面・プラス面の個性がある中で、どの子も大事にされ安心して過ごせる、受け入れられる社会が大切。

参加者：「学校に行って楽しかった」と思える将来が大切。

事務局：概ね４テーマに分類できた。①道徳、モラル、②ダイバーシティ、個の尊重、自他の理解、バランスの取れる人、③コミュニケーション能力の向上、外国語と国語教育、④競争力、能力開発、探求学習

（２）社会変化の検討

事務局：次は「学校教育」にまつわる社会変化を検討する。

〇参加者が、ホワイトボードに付箋（水色）を貼る。

「コロナ、リモートワーク」「ＩＣＴ導入による授業のあり方の変化」「ロボットの活用」「教育のＩＴ化」「ＩＣＴ化（ＧＩＧＡスクール、プログラミング、ＳＮＳ、リモート授業）」

「安全安心の中での子供の遊びの変化、友達関係も」「外遊びの減少」「体力低下」「見えにくい格差」

「略語の氾濫」「教員の質の低下」「教員と子ども対応」「求められる能力の変化（試験内容、暗記学習からの脱却）」「学力低下」「教員のなり手不足（激務、ブラックの印象が強い）」

「少子化への対応」「ダイバーシティ（いろいろな子）」「職業の細分化」

（３）まちの将来像（めざすまちの姿）の検討

事務局：どういう子供たちが育つまち、環境がいいか。まちがどんな教育がやっていると良いと思うかを考える。

〇参加者が、ホワイトボードに付箋（薄い黄色）を貼る。一人ずつ説明。

参加者：「一人ひとり認めあう」

参加者：「個性を伸ばし社会で生かせるよう、これからの日本を支える力を」「自分の力で食べて生きていけるようたくましい力を」「一人ひとりの個性を生かして自己実現できる教育を」…変動のある世の中で、路上生活でなく自分の力で生きていけるようになってほしい。

参加者：「社会問題をイノベーティブな手段で解決する文化の醸成」「道具であるＩＣＴを上手に活用できるリテラシー」「子どもが自発的に学びたいことを見つけ深めていける能力」「いろいろな国、背景を持つ子供が教育を受けることができる⇒国際ハブ」ハイエデュケーショ

ンの人、外国の人は教育環境を重視している。港区が魅力的に思えるまちになってほしい。

参加者：「身近な場所の理解と積極参加」「お互いを思いやる優しいまち」

参加者：「住民の声が通るまち」個人でやることが難しい場合もある。住民と行政が話し合うことができる体制が必要。行政ができない場合でもちゃんと理由が示されるようになってほしい。

参加者：「楽しく生き生きできるまち」「正しい教育を受けることができるまち」「安心して学校に通え、楽しく学べるまち」…いじめや不登校を減らす等。「つねに先端の学びができるリーディングシティ」…ＩＣＴの活用等。「外国人との交流でＮＯ．１」…英語教育等

事務局：イメージしやすいよう、共通項をまとめる。「個性」、「安心、やさしい」、「生きる力」

（４）取り組み内容の検討

事務局：テーマ分け時に出てきた課題に対して、具体的な取り組み内容を検討する。

〇課題

①モラル、道徳観、②ダイバーシティ受容する教育、③個の尊重、④自他の理解、⑤バランスの取れる人、⑥コミュニケーション能力向上、⑦外国語教育と国語教育、⑧競争力、能力開発、探究、⑨ＩＴ教育

〇参加者、ホワイトボードに付箋（黄緑色）を貼る。

≪保護者、地域、周りの大人の教育】≫

「大人一人ひとりがゆとりをもって子どもに接する」「大人自身の再教育、アップグレード」「ライフ・ワークバランス。家庭・コミュニティでの教育」「先生の教育、試験等、ＷＥＢでの研修、講演」

≪先生のゆとり≫

「教師にゆとりをもたせる。心にゆとりがあると子供も見え、授業も良くなる。」「事務的作業的な手続きの簡素化、ＩＣＴ化」

≪授業でモラル、道徳、国語、コミュニケーションに取り組む≫

「先生のモラルを高める研修」「余った時間で、道徳・国語・コミュニケーション」

【能力開発】

「能力、個性を生かすクラス分け」「単元、内容によっての能力別授業（進み具合）」

【地域の教育への協力】

「地域、学区を超えた交流　※いろんな地区の子供と交流」「校外学習、体験学習、出前授業、外部講師を増やす」「コミュニティより教育参加。パパ・ママ先生、一芸先生」「放課後活用、相互理解できる場づくり」

事務局：算数ではすでに習熟度別指導を実施している。幸いなことに港区はPTAや地域がとても協力的。みんなで育てていく風土はある。「先生のゆとり」という点では、校務支援システム（週案、記録）を導入している。職員室に戻って作成するのが手間という声があったため、先生にもタブレットを配布して入力できるようにした。ノー残業デーも設けている。夏休みは２週間程度閉校期間を設け、年休・夏休を取ってもらっている。「外部講師」については、港区は資源がありすぎるくらいであり、様々なところから依頼が来る。継続するもの、２年で変えるものもある。例えば、ラグビーを通じてプログラミングを学ぶサントリーのプログラムや、慈恵医大の医師に来ていただいてがんの緩和ケアの話をしてもらう等。どういう人を呼んでほしいか等の意見がもらえるとありがたい。「地域を超えた交流」については、区議会でこどもサミットを行い、自校の児童会・生徒会で共有はしてもらっている。

ただ、同じ地区での学校を超えての交流はあるが、他の地区とはなかなかない。大変参考になった区の学力調査をＣＢＴ・電子化（タブレット）した。４校モデル実施したうえで、全校に展開する。将来的な必要な力を養う。ただ、毎回のテストは紙も使い、バランスをとっている。

参加者：様々な人材が外部講師をやっているという話があった。英語や理科、プログラミング・ＩＣＴの支援員は十分足りているのか。

事務局：委託契約を結び、どの学校にも平等に配置している。

（５）区民の参画と協働の検討

事務局：どういうところと協力すればよいのか、どうすれば区民が参画できる、したいと思えるか検討する。例えば、既に出た意見だと、パパ・ママ先生等。

○参加者が、ホワイトボードに付箋（水色）を貼る。

「ＩＣＴ関連で近隣のＩＴ企業のＯＢ等と協力して授業準備、ヘルプデスク設置等」

「家庭にいるＯＢ，ＯＧが英語語り聞かせ等」

「家庭での時間をなるべくとり、子供との対話、教育の機会を増やす」

「学校・コミュニティで自分ができることを積極的にやる」

「学校行事コミュニティへの参加」

「保護者や学校に近い人以外の意見や考えを聞ける窓口」

「いじめ、不登校者の早期発見：近隣居住者の見守りから」

「（民間）施設の活動の紹介と、その取り組みに入っていく」

「いろいろな経験を積んだ大学生の話」

「大使館、外国人との交流」

参加者：誰でも意見を言えるような入り口があればよいかと思う。区の発信が弱い。広く知れ渡るように工夫する必要がある。

４　その他

事務局：一言ずつ感想をどうぞ。

参加者：港区ならではの施策がもっと分かると良い。

参加者：学校教育はわかりそうでわからないテーマ。もっと掘り下げて勉強したい。

参加者：付箋を貼って議論する形式が新鮮だった。区の話をもっと聞きたくなった。

参加者：大変勉強になった。港区にはいろんなアセット（企業、大学等）がある。総力上げてより良くしていきたい。

参加者：身近なところを想像しながら議論できた。勉強になった。

参加者：いろいろ意見が聞けた。もっと深く知りたい。区からの発信はより強化してほしい。

事務局：次回は10月27日（木）。いずれまとめる提言には文量の制限もあって全員の意見を網羅できないかもしれないが、議事録を通じて意見はしっかり残るのでご安心いただきたい。

（閉会）

リーダーが第２回グループ会議の閉会を告げ、終了。

以上

みなとタウンフォーラム
子育て・教育グループ（第７グループ）

会議録（第３回）

■開催日時・場所・出席者

日　時　：令和４年 10 月 27 日（木）18 時 30 分～20 時 10 分

会　場　：港区役所９階　912 会議室

メンバー：６名（２名欠席）

事務局　：対応部門関係課長３名（子ども家庭課長、保育政策課長、子ども家庭支援センター所長）、対応部門関係係長１名（子ども・子育て支援係長）、企画課グループ担当２名、サポートメンバー３名、委託事業者２名

■次第

（ 開 会 ）

1　前回（第２回グループ会議）の振り返り

2　検討テーマに関する議論

・将来像（めざすまちの姿）と社会変化の検討

・実現に向けた課題と施策の方向性

・具体的な取組と区民参画の検討

3　その他

（ 閉 会 ）

■配付資料

資料番号	資料名
1	第３回グループ会議の進め方

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画・港区実施計画

■会議要旨

（開会）

リーダーより、第３回グループ会議の開会宣言を行った。

１　前回（第２回グループ会議）の振り返り

事務局から、「学校教育の充実」をテーマとした前回のグループ会議について、振り返りを行った。

会議録は現在作成中のため、改めて内容を確認いただくこととした。

２　検討テーマに関する議論

（１）前回までの内容の振り返り

配布資料１に基づき、みなとタウンフォーラムの目的やグループ会議を進める上での約束、提言の取りまとめイメージ等について、ファシリテーターが説明を行った。

（２）検討テーマ「保育・子育て支援サービスの充実」について

第１回グループ会議で参加者から出た、「保育・子育て支援サービスの充実」で取り上げる話題（提言したい内容）について、ファシリテーターから振り返りを行った。

その後、２グループに分かれ、検討テーマについて思っていることを共有した。

（小グループでの共有前の質疑応答）

参加者：私立保育園は含むか。区立保育園のみか。

事務局：全体について議論いただきたい。

（３）社会変化の洗い出し

今起きている社会変化、これから起きそうな社会変化を参加者各自で付箋に書き出し、ホワイトボードで共有後、ファシリテーターがグループ化を行った。

【グループ化】※（）内は参加者から出た意見

- ＩＣＴ（情報過多）
- 少子化
- コロナ
- リモートワーク
- ダイバーシティ・国際化（いろいろな国の人々が増える、人権・国際性）
- つながり・孤立・孤独（地域のつながりの希薄化、子育ての孤立化）
- 教育水準の上昇、育て方の多様性、主体性
- 女性の社会（女性の社会進出、共働きの増加）
- その他（教育水準の上昇、育て方の多様性、目指す大人像・学習内容の変化、言われた事をする⇒自発的に）

（４）将来像の共有

各参加者が思う「めざすべきまちの姿」を付箋に書き出し、ホワイトボードで共有後、一人ずつ説明し、ファシリテーターがグループ化を行った。

○各参加者による説明

参加者：地域のつながりで安心して子どもをすくすく育てることができるまち、港区を誇れる子であってもらえるまち

参加者：困っているときに声をあげることが出来て、助けてあげられるまち、「自己責任」という言葉をなくす

参加者：港区独自の（港区でしか受けられない様な）サービスが受けられる中での子育て（医療サービスを高校生まで助成、教育を高校生まで助成など）、平等に教育が受けられる中で育っていくまち

参加者：子ども一人ひとりの個性・自主性が伸ばせるまち、親・地域・保育施設がシームレスに子ども育てをサポートできるまち

参加者：出産から就園・就学まで支援が受けられるまち、子どもを大事に見守ってくれるまち、医療費助成も必要

参加者：社会資源を活用して、地域と連携した子育てができるまち（育児サポート子むすびなど）

【グループ化】※（）内は参加者から出た意見

①港区独自（港区ならでは）の誇れるサービス

②支援がいきわたること、平等であること

③困っている人を助ける、支援する

④子どもが安心できる、大切にされる

⑤地域のつながり

（5）課題

課題について、各参加者が付箋に書き出し、ホワイトボードで共有後、一人ずつ説明し、ファシリテーターがグループ化を行った。

（課題書き出し前の質疑応答）

参加者：保護者の悩みはどこに相談するのか。インターネット等で探しても出てこない。

事務局：すでに保育園や幼稚園等に通っているのであれば通園先へ、在宅子育てをされている方や通園先以外に相談したい方であれば、子育ての総合的な相談は子ども家庭支援センターへ相談してもらうこととなっている。詳しくは子ども家庭支援センター所長からご説明する。

事務局：メール又は電話で相談ができる。会って相談したい場合は予約が必要。保健師・心理士の専門職への相談もできる。港区では助産師や保健師が全戸訪問を行っており、相談の入口となっている。その後、子ども家庭支援センターにつながるという場合もある。

参加者：相談を待たせることはないのか。

事務局：基本的に相談を待たせることはなく、電話がかかってきたらその場で相談に応じる。その日のうちにどうしても話したい方はお母さんが切羽詰まっている場合は、その日のうちに家へ行ったり、子ども家庭支援センターに来ていただいたりする。ただし、心理士や保健師への相談をご希望の場合には、お待たせする可能性がある。

参加者：相談先はどのように周知しているのか。

事務局：母子手帳アプリでの情報発信や、産前産後家事・育児支援サービスの申請で子ども家庭支援センターに来所した場合に子ども家庭支援センターが相談場所であることを知っていただいている。

参加者：情報を手に入れることが難しいのでは。
事務局：港区の総合支所で母子手帳を交付するときに、子育ての情報がファイルでまとまった母子バッグを必ず渡している。
参加者：港区に住んでいて、港区の病院で生まれたらじゃないと助産師は来ないのか。
事務局：港区の総合支所で母子手帳をもらうとその中にはがきが入っている。それを送っていただければ助産師が日にちを決めて伺うこととなっている。
参加者：ハンドブックもありますよね。
事務局：（子育てハンドブックを指し）色々な施設で配っています。
参加者：子育て家庭ではない第三者が、相談したかったらどこに相談すれば良いのか発信が足りない。
事務局：それを付箋に書いていただきたい。

（各参加者による説明）
参加者：区報などで情報は出ているが、分かりやすいものがない。子育て支援を行っているＮＰＯ法人を知る一覧の作成等伝える手段の改善が必要。孤立している母子をつなげる手段が必要。
参加者：前より保育園に入りやすくなったが、私立保育園ができ、保育内容がどうなのかを確認して指導していく必要がある。
参加者：人を育てるのは人。育ててくれる人に対してよりよい待遇・時間的な余裕を作ることが非常に重要であると思う。集中して子育てできるように、また、保育者自身が新しいことを勉強し、より充実すると、保育にポジティブに反映されると思う。
お台場は狭いコミュニティだが、うまくいっていると思う。あっぴぃや保育園が作ってくれたコミュニティや、パパ友・ママ友などのコミュニティに相談したりしている。コミュニティ同士をつなげるような（保育園にまちのお医者さんを呼ぶなど）ものができれば悩み相談が減ってくるのではないか。
保育園は勉強のようなことを教えてくれないが、自然観察や虫を観察するのは保育園で実施してくれている。保育園と幼稚園それぞれに良いところがあるため、両方が合わさったら良いと思う。
参加者：相談先は相談したい人が自分から調べないとわからない。保育園などで予約取らずにいつでも相談できる状態が理想。支援者数に対し利用者数が多いという情報を見た。保育士資格がある人は子育て支援員研修の受講内容を簡略化するなどの変更いただきたい。
参加者：活字離れがあるため、冊子などがインターネットで見られるようなものになると良い。また、個別の深い悩み（日本語教育がいいのか英語教育がいいのかなど）に対し、相談を受ける人がアバウトな回答をしたということを聞いたが、どのような人が相談を受けているのか。
事務局：子ども家庭支援センターは、無資格の者が相談を受けるということはない。虐待対応は、基本的に保育士（２年以上）や社会福祉士などの有資格者が行っており、追加で児童福祉司の任用資格を取得することになっている。
参加者：保育士のサービス残業をなくしてほしい。
参加者：保育士と幼稚園教諭と書いたほうが良い。
参加者：公立園と私立園の連携（交流や情報共有）をしていくと子どもにとって良い。また、保育

士の処遇（学校の先生もかもしれないが）を改善していかないと人は集まらないのではないか。

事務局：保育士の処遇改善について、港区の取組みを保育政策課長からご説明する。

事務局：東京都が家賃補助（借り上げ住宅を借りた場合に補助）を実施しており、港区でさらに上乗せして補助を実施している。また、国は、昨年度末から保育士・看護師等の給与の３％を引き上げるという施策を実施しており、区内の私立園についても３％引き上げ分を区が補助している。研修を受けた場合の補助を実施したり、忙しい中でも研修を受けやすいようにオンラインで実施したりといった取組みも実施している。

参加者：地域で子どもを育てるような施策は実施しているか。

事務局：総合支所制度の取組みの中で子育てに関する事業を実施している。

事務局：例えば、芝浦港南地区では「子育てあんしんプロジェクト」などを実施している。

事務局：子ども中高生プラザや児童館では乳幼児の集いを実施している。

事務局：子ども家庭支援センターには、地域交流室というカフェがある。子連れでなくても利用できる。港区在住又は港区で子育て支援に携わる支援者であって、登録していただければ利用できる。また、11 月の児童虐待防止推進月間には、地域の方を招いて、マスキングテープでハートを作ったり、障害児・者の作品展示を行ったり、赤坂支所と連携してＳＤＧｓ月間としてスタンプラリーをしたりしている。

参加者：地域交流室（カフェ）に登録しないといけないのは大変。

事務局：児童相談所もあるため、登録は必要としている。

【グループ化】※（）内は参加者から出た意見

①保育園・幼稚園の運営、公立園と私立園の連携（保育内容の充実を！保育園入りやすくなったが内容はいろいろで教育内容を充実させる、民と官の連携・交流）

②保育士・幼稚園教諭の待遇（保育以外の雑務時間、保育者の自己研鑽、休み時間の少なさ、質の向上、保護者対応※）

※（８）感想での発言

③子育てＮＰＯなど人をつなげるコミュニティの形成、地域で子育て（家庭・保育施設・地域を結びつけるイベントが少ない、子育てに関する支援をわかりやすく伝えていく、手段の改善）

④保護者の子育ての悩み

⑤子育ての悩みの相談方法（発信力・方法、サービスを知らない人（世代）への周知、情報弱者、個別の悩みについて、命に直結しない悩み）

（６）取組内容の検討

どのような取り組みをしたら港区が誇れるまちになるのかを、各参加者で付箋に書き出し、ファシリテーターがグループ化を行った。

（取組内容書き出し前の質疑応答）

参加者：すでに課題に書いた内容と同じになってしまう。

参加者：先ほど課題として入れたものも、取組に動かして良い。

事務局：補足として、例えば「発信力の強化」といってもどういう発信をしたら良いかを具体的に書いていただくなど、ざっくばらんに書いていただいて良い。

参加者：どのような取り組みをしているかを先に知りたい。
事務局：みなとタウンフォーラムは皆さんの意見を聞く機会なので、皆さんの意見をお願いします。
参加者：先に取組みを聞いてしまうと、それならよいかと意見が出なくなってしまう。強い意見があることが分かれば、それを強化するということになるのでは。

【グループ化】※（）内は参加者から出た意見

- 発信力の強化（検索ワード「港区　子育て　悩み」でひっかかるように、ＳＮＳ等での発信の強化、地域性強める発信、ＩＣＴ化、港区ならではの発信工夫、ＬＩＮＥ等での発信）
- 保育園・幼稚園のサービスの見える化（保育園・幼稚園・私立園全体でメニューを選べるように、幼稚園・保育園の交流を１年に２～３回）
- ＮＰＯ・地域団体のコミュニティ推進（地域のＮＰＯを総合支所間でつなげていく、保護者と子どもとの行事を地域で増やしていく、まちのサザエさん化、つながる機会をより多くつくる）
- ＩＴを活用した先生や保護者の負担軽減（保育園・幼稚園の連絡帳等のＩＴ化、保育士の待遇をより上げる、ＩＣＴ導入で仕事量を減らす）

（７）区民の参画と協働の検討

地域の資源をどう活用していけば課題が解決していくかを、付箋に書き出し。

（書き出し前の質疑応答）

参加者：具体的に書くのか。抽象的に書くのか。
事務局：どういった切り口でも可。普段皆さんが感じていることをざっくばらんに書いてもらえれば良い。
参加者：各支所はあるが独立しているが、それはどうしたら良いか。
事務局：地域の特色に合った取組を行っているが、それがうまく機能していないのであればそれを良い方向に崩すといった内容を書いていただければ良い。
参加者：各地区で取組を行いながら、港区全体でも取り組むようになれば良い。ママたちがＮＰＯを立ち上げ、ボランティアをやっているので、それを港区全体で広げていく必要がある。
事務局：まさしくそういうものをご意見としていただきたい。地域性を持ちながら、それぞれが有機的につながるなどといったことだと思うので、それを書いていただけたら助かる。

【参加者から出た意見】

- 発信に一般区民をどんどん入れていく
- 現在あるＮＰＯを港区全体で広げていく
- ボランティアを増やしていく。ボランティア（子育て）の公募
- 各支所と合同で行えるイベント
- イベントの予算をもう少しほしい
- 地域交流の活性化（外に出てもらう）
- ビジネス・プロフェッションを生かして保育・子育てに参加
- 保育士のプロフェッションをより社会で活用
- 預け先など地域のボランティアにたのむ＝最低限の研修は必要だと思うが…
- ある程度は区が先頭に立って進める（ＩＴ化、残業）
- 保育士基準を港区独自に増やす（０歳３人を２人にする）

※以下、（８）感想での発言から、「区民の参画と協働」に取り入れた内容

・　当事者以外を巻き込む

事務局：情報発信は国でも東京都でも課題になっている。たくさんの情報を届けることによって、本当に必要な人に必要な情報が届かなくなってしまうこともある。一方で、例えば「港区子育て」と検索したら表示されるのは良いし、知りたい情報が知りたいときに拾えるというのは良い考えだと思う。ＳＮＳの使い方やその塩梅が行政全体で課題になっていることはご承知おきいただきたい。デジタルデバイドなどの問題もあり、試行錯誤中である。

（８）感想

参加者：実際に保育に携わっている人の意見を聞けて良かった。

参加者：区が情報を発信してくれると、意見を出しやすい。区も発信して、意見を出し合いながら作りあっていけたら良いと思う。

参加者：活発に意見が出て面白かった。発信力の強化という情報が子育てを始めて初めて知った。当事者でない人も巻き込むような発信ができたらより地域のコミュニティができるのでは。

参加者：情報がいろいろな人に届けばよい。保育士の残業は保護者対応もある。保育士がもう少し専門的なところにつなぐことができればよい。

事務局：良い意見なので、先ほどの「当事者でない人も巻き込むような発信」は「区民の参画と協働」に、「保護者対応」は「課題」に追加したい。

参加者：区は虐待など命に直結する悩みであれば掘り下げて相談を受けると思うが、保護者にとっては重要だがそうでない悩みについても相談出来たら良い。

参加者：港区ならではというのが子育ての中でもあれば良いと思っている。発信を強化してもらいたい。区民の参画をＳＮＳなどで発信していくと良い。東京の地域のつながりは弱いため、もう少し地域の連携を強める必要があり、第７グループから「地域」を発信出来たらと思う。

事務局：みなさんから新しい視点でのご意見をいただき、ありがとうございました。

（９）事務局から

事務局から、次回の開催日時（11 月 10 日（木）18：30～）の確認及びテーマの確認（「子どもの健全な育成支援の推進」）を行った。

（閉会）

リーダーが第３回グループ会議の閉会を告げ、終了。

以上

みなとタウンフォーラム
子育て・教育グループ（第７グループ）

会議録（第４回）

■開催日時・場所・出席者

日　時　：令和４年 11 月 10 日（木）18 時 30 分～20 時 40 分
会　場　：港区役所９階　研修室
メンバー：５名（３名欠席）
事務局　：対応部門関係課長５名（子ども家庭課長、保育政策課長、保育課長、学務課長、教育指導担当課長）、対応部門関係係長１名（子ども・子育て支援係長）、企画課グループ担当２名、サポートメンバー３名、委託事業者２名

■次第

（ 開 会 ）
1　前回（第３回グループ会議）の振り返り
2　検討テーマに関する議論
　・将来像（めざすまちの姿）と社会変化の検討
　・実現に向けた課題と施策の方向性
　・具体的な取組と区民参画の検討
3　その他
（ 閉 会 ）

■配付資料

資料番号	資料名
1	第２回グループ会議　会議録
2	第３回グループ会議　会議録
3	第４回グループ会議　投影資料

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画・港区実施計画

■会議要旨

（開会）

リーダーより、第４回グループ会議の開会宣言を行った。

1　前回（第３回グループ会議）の振り返り

事務局より、「保育・子育て支援サービス」をテーマとした前回（第３回グループ会議）の振り返りを行った。

2　第４回グループ会議の進め方について

事務局より、配布資料３に基づき、進行内容、目的、全体スケジュールの説明を行った。

参加者同士（２組に分かれて）で、前回を振り返り、気づいたことの共有を行った。

（主な意見）

参加者：今まで色々な話題が出たが、全体的に具体的な話ができなかったので、今回は、どのような取組をしていくかなど、より具体的に深掘りさせていきたい。

参加者：提言にまとめるなら具体的な話をしていきたい。

事務局：今回まではテーマごとに意見を幅広く出してもらいたい。次回以降は提言に向けてより絞って固めていく。提言の方向性についても次回以降話し合いながら決めていく。

ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ：最終的な提言はある程度抽象的になるかもしれないが、議論は具体的にしていきたい。

参加者：時々、具体的なイメージをもたせて話すことが大事だと思う。

事務局：具体的な意見を出してもらうと、あとから抽象的にもしやすい。たくさん意見を出してもらうのは大歓迎。

参加者：（ホワイトボードに記載された課題①地域や多様な主体との連携②学童・児童館・放課ＧＯの活用③いじめ・引きこもり④子どもの居場所づくり（若者支援）を見ながら）課題①と②は前回と共通する部分も多い。課題③と④は重いテーマだと感じる。

ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ：今回は課題③と④を中心に深めていくのが良いのかもしれない。

3　検討テーマに関する議論

（１）社会変化について

前回出た社会変化にプラスして、参加者が感じることを黄緑の付箋に記載して貼っていく。

（あらかじめ記載された内容）

ＩＣＴ、少子化、共働き世帯、国際化、孤独と孤立、コロナ、リモートワーク、教育格差、ダイバーシティ、地域の希薄化

（参加者が付箋に記載した内容）

「課題をこなすから課題をみつけ解決するに」

「住まいの高層化」

「家庭環境の多様化」

「単身者の増加・シングルマザー・父子家庭」

「格差の拡大」

「社会変化に対する教育の無変化」
「外での遊び場の減少（屋内・おけいこごとへ）」
「愛着関係の低下」

（主な意見）
参加者：以前は子どもと保育者が親密だったが、保育士の待遇が悪いため、子どもに愛着がわく前に退職してしまう例がある。愛着関係の低下が問題だと感じる。
参加者：（愛着の希薄化は）親子関係でも同様のことが言える。
参加者：色々な家庭が存在する。その中で、社会変化に対応する学校教育が必要になってくる。
参加者：外での遊び場の減少が気になる。

（２）将来像について

前回までと重なる部分も多いため、資料１及び資料２の議事録を振り返りながら、ピンクの付箋に記載していく。付箋を見ながら、一人ずつ発表してもらった。

参加者：違いを認め個性を伸ばす文化をつくりたい。課題③及び④を踏まえて記載した。それぞれ子どもがやりたいことを見つけてあげることが、居場所づくりになる。
参加者：単身者を支援するシステムを分かりやすくする。ヤングケアラーなど困っている家庭がどのように情報収集すればよいのかについて、ボランティアの考え方を普及させていきたい。
参加者：学費や医療費の支援など、金銭面の心配をしなくてもいいまちにしていきたい。現在はシングルマザーなど、経済的に不安を抱える家庭も多い。次に、子どもの健康面を重要視していきたい。子どもは太陽を浴び、外で遊ぶことが大事。先ほど課題として住まいの高層化を記載したが、今は遊び場がなくなってきている。空き地や広場を活用することで、子どもが自然に触れることもできる。からだづくりも大事にするまちになってほしい。
参加者：安心安全なまちにしていきたい。困ったときに回りがやさしく助けてくれるようなまちにしていきたい。
参加者：子どもが安全に明るく過ごせるまち、気軽に周囲と関われるまちにしていきたい。地域との関わりを増やさないと健全な育成支援に繋がらない。気軽に地域と交流できることが必要。
ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ：参加者のみなさまの意見を聞くと、「安心安全」「助け合い」「居場所づくり」の必要性を特に感じる。

（３）課題について

参加者が課題について黄色の付箋に書いて貼っていく。なお、ホワイトボードにはファシリテーターが前もって記載した課題①地域や多様な主体との連携②学童・児童館・放課ＧＯの活用③いじめ・引きこもり④子どもの居場所づくり（若者支援）が記載されていて、参加者はこれらについての深掘りや別の課題をあげていく作業をする。

（記載前の主な意見）
参加者：若者支援とあるが、若者はどのくらいの年齢までを含むのか。
ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ：参加者のみなさまはどのように思うか聞きたい。

参加者：今までは義務教育までの年齢を想定していた。
事務局：国の定義では40歳未満までが若者になる。
参加者：ここで議論される若者は未成年を指すのではないだろうか。
（参加者で話し合い、ここでは高校生までを指すことになった。）
参加者：課題①と②は課題というよりも取組に見える。少し他と毛色が異なる気がする。
ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ：記載した内容以外でも、課題があれば詳しく出してもらいたい。
事務局：将来像がある中でどういう課題があるかを考えてほしい。
事務局：将来像を考えていくにあたって、これはなくしていかなければならないことを課題に書いてもらいたい。

（分類された主な付箋の意見）

【安心安全について】
「誘拐・いたずら・犯罪・アラート」
「車が多い・道が狭い」

【親の環境について】
「親・保育者の忙しさ」
「単身者の増加と経済格差の拡大」

【大人の価値観について】
「いろいろな考えを良しとする」
「大人の価値観や考え方を変えていく」
「大人のエゴ・おしつけ」
「乳幼児時期の心理的の重要さを考える」
「子どもとの会話」
「子どもの思いを分かってあげる」
「いじめを早く察知する」

【区以外の施設活用について】
「既存の公園の活用」
「民間ビルの活用」
「引きこもり・学び方が多様に」
「母子ともに引きこもりになっている」

【その他】
「障害者や外国人に対する教育・育成」
「子どもの社会性がそこなわれる」
「子どももいじめを理解」

（記載後のやり取り）
参加者：生活保護者はどのくらいいるのか。

事務局：港区は他の区より少ない。

参加者：港区には都立病院がない。逆に民間の病院や大学病院が多い。これは区が全体的に豊かだからだと思う。反対に、隠れた貧困が課題になっている。区有施設以外の活用も必要。

事務局：令和３年度は 1,765 世帯が生活保護になっている。保護率でみると、東京都は 20%、全国は 16%、港区は 7.9%になる。

参加者：他人と比べて判断しないようにする。ゆっくりでもいいから色々な価値観を認めてあげる。大人の価値観を子どもに伝える。価値観の多様性を認めれば、いじめをなくすことに繋がるのではないか。

参加者：大人の価値観は固まってきている。それを変えるのはなかなか難しい。子どもに自分の価値観を押し付けるのではなく、柔軟に捉えるようにする。

参加者：大人がもっと柔軟性を持ってほしい。

参加者：区が危機管理に関するアラートを出してくれるが、通知が多い。実は危険が多いのではないか。また、車が多いまちを変えていきたい。都心部に車をもってこなくする取組も検討する。

（４）取組について

課題を踏まえた取組について、参加者が水色の付箋に記入して貼っていく。

（分類された主な付箋の意見）

【安心安全について】

「都市部は歩行者のみ」

【親の環境について】

「自宅勤務・リモートワーク」

【大人の価値観について】

「学校でいじめについて考える日を設ける」

「いじめや引きこもりの早期発見。学校や地域での気づき」

「各地域で大人の勉強会・研修会を開催」

「大人も生涯学習」

「親向けの講演会。自分自身への気づき。親の対応と子どもの行動」

「地域住民の連携。イベント等で子どものことを知っていく」

「地域行事を活発にする」

「学校・保育園等の子どもとの交流を増やす」

【その他】

「引退した保育士の活用」

「多様な学校・学習環境」

「教育の選択肢を増やす」

「引きこもりの母子を解放させる」

「幼稚園・保育園の先生の待遇を改善」

「港区独自の保育士・教員へのモチベーション対策（処遇改善）」
「授業を多言語で。ＩＣＴやＡＩで障害を感じさせない」

（主な意見）

参加者：いじめの実態はわかるが、引きこもりの実態は見えにくい。特に大人の引きこもりは周囲から見えにくい。

参加者：引きこもりは難しい課題。港区の対策はどうしているのか。民生委員が掌握しているのか。

参加者：どのくらい引きこもりの方がいるのかわからない。いじめと違ってわかりにくい。

事務局：引きこもりは若者だけでなく高齢者にも存在する。区では生活福祉調整課が所管している。８月からは福祉総合窓口を設置し、あらゆる分野の困りごとや相談を受けられる体制を整えた。窓口で話を聞いて、専門家が家庭に訪問するなどの対応もできる。国の調査では引きこもりの割合は人口の４％、東京都では4.8%いるとされている。ここから推定すると、港区では 12,000 人くらいいるのではないか。国の定義では６カ月以上の就労・就学をしていない人を引きこもりとする。ただ、自分の意思では出かける人も含めるため、みなさまのイメージよりも幅広いのではないか。見えにくい実態は課題となっている。

事務局：港区では不登校者の全員を把握している。不登校者は 30 日以上出席しない人のことを指す。担当の指導主事も設置していて、実態については教育長にも報告している。保護者と学校が接触できる場合は課題を渡したりできるが、接触ができないと対応が難しい。また、スクールソーシャルワーカーを学校に派遣し、改善につながったケースもあった。親子で引きこもりのケースはあまりいない。子どもが引きこもりでも良いと思っている保護者が多い。

参加者：引きこもりの中には他の教育施設に行っている人もいるのか。

事務局：行っている人もいるが、無気力のような何もしない人が多い印象がある。

参加者：地域としてのアプローチをしていきたい。

事務局：学校によっては民生委員に繋ぐ対応もしている。

参加者：実際に不登校になる前に解決するのが大事だと思う。また、地域行事があっても不参加のケースが多い。これからの世の中、地域との繋がりが大切になってくると考える。

参加者：幼稚園や保育園など、大人の考えていることに対して、子どもが吸収していく。その中でも大人の価値観が大事。

参加者：勉強会などで子どもに対する知見を広める。子どもと大人が話す機会を増やす。

参加者：放課後に子どもの集まりにボランティアが参加する取り組みがある。そういうところに子どもの遊び場ができればよいのではないか。

参加者：引きこもりの子どもは学校のカリキュラムをこなしているのか。

事務局：やるようには伝えている。オンライン学習を活用している子が多い。

参加者：引きこもりの子たちは、学習内容を理解できているのか。

事務局：塾に行かせるなどして、勉強はできる子が多い。逆に、社会性の方が問題になっていると考える。小学校で不登校だと、中学校に進学しても不登校になるケースが多い。

参加者：いじめ関係では、子ども同士の気づきが大事になる。朝の時間などを活用して、いじめについて考える日を設ける。港区でもぜひやってもらいたい。

事務局：６月・11 月・12 月にふれあい月間を設定している。校長会でも情報共有している。議会棟で子どもサミットも行い、いじめ問題について代表の子どもが報告している。

参加者：さらに活発にさせてもらいたい。大人が参観できる場があると良い。
参加者：何気ない態度がいじめに繋がる可能性があることを理解することが大事。
参加者：小さい頃は喧嘩かいじめかわかりにくいことがある。教育の多様性や居場所づくりについて考えていきたい。
事務局：港区には適応指導教室を設置している。学び方が多様になる中で、子どもごとに寄り添っていく教育が必要なのではないかと考えている。
参加者：学びの場を広げる。学校に行かなくてはだめという認識をなくしていきたい。
参加者：選択肢を増やすことが大切だと思う。
事務局：学びの場を提供していきたい。

（５）区民の参画と共同について

取組を踏まえて、参加者が区民の参画と共同について黄緑の付箋に記載していく。

（分類された主な付箋の意見）

【親の環境について】
「学校にリモートワークの場所をつくる」

【大人の価値観について】
「地域行事のモチベーションをあげる」
「メールマガジンのようにプッシュ型でその時々の会合情報を発信する」

【区以外の施設の活用】
「街ごとキッザニア」

【その他】
「子どもとのミーティングの場を情宣する」
「困ったら区に繋いでくれる仕組みを作る」
「青少年育成委員や民生委員に気軽に参画できる環境」
「私教育機関を放課ＧＯで」

（主な意見）

参加者：地域行事のモチベーションをあげる。地域との連携が大切。
事務局：中学校区ごとに青少年地区委員会を設置し、子どもたちのために様々な行事を実施している。例えば、キャンプやスキー教室がある。参加者も多く、抽選になることもある。
参加者：青少年委員に参加できる門戸を広げるなど、より活発にしてもらいたい。
事務局：町会に入りながら活動している方も多い。
参加者：港区は手厚く様々な取組をしているので、それが伝わらないのはもったいない。困ったことがあったらまず区に相談することを周知させていきたい。
事務局：（参加者の意見を踏まえて）区の施策の広報役を設置し、困ったら区に繋ぐような参画の仕組みが必要ということですかね。
参加者：我々がタウンフォーラムに参加したのもこういう活動があることを知ったからであり、他

にも自分たちが知らない取組があるかもしれない。

参加者：こうした意見は子どもの健全育成支援だけでなく、区政全般に言えることになる。広報部門にも伝えようと思う。

ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ：民生委員や青少年育成委員に気軽に参画できる仕組みがあると良いかもしれませんね。

（参加者が頷く）

参加者：昔遊びを敬老の日だけでなく、色々な人が参加できる機会を設けていきたい。責任がある団体と結び付ければ安全対策にも繋がるのではないか。

参加者：こうした取組が子どもたちを知ることに繋がると思う。

4　その他

ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ：一言ずつ感想をどうぞ。

参加者：回を重ねて方向性が見えてきたが、今回はより具体的な話題になって良かった。

参加者：これからもっと議論を深めていきたい。

参加者：具体的な話ができて良かった。考えさせられる機会になって勉強になった。

参加者：自分自身も色々と勉強になった。

参加者：活発なご意見をありがとうございました。

事務局：次回は 12 月 1 日（木）に会議を行う。最終的には提言書にまとめていくため、次回は今まで議論した３つのテーマについてより深めていく。

（閉会）

リーダーが第４回グループ会議の閉会を告げ、終了。

以上

みなとタウンフォーラム
子育て・教育グループ（第７グループ）

会議録（第５回）

■開催日時・場所・出席者

日　時　：令和４年 12 月 1 日（木）18 時 30 分～20 時 30 分

会　場　：港区役所９階　911 会議室

メンバー：４名（４名欠席）

事務局　：対応部門関係課長名３名（子ども家庭課長、学務課長、教育指導担当課長）、対応部門関係係長１名（子ども・子育て支援係長）、企画課グループ担当２名、サポートメンバー３名、委託事業者２名

■次第

（ 開 会 ）

1　第２回～４回目の内容確認について

2　まとめ方の説明

3　提言内容のブラッシュアップ

4　その他

（ 閉 会 ）

■配付資料

資料番号	資料名
1	第４回グループ会議　会議録
2	テーマ１「学校教育の充実」
3	テーマ２「保育・子育て支援サービスの充実」
4	テーマ３「子どもの健全な育成支援」
5	第５回投影資料

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画・港区実施計画

■会議要旨

（開会）

リーダーより、第５回グループ会議の開会宣言を行った。

1　第２回～４回目の内容確認について

事務局より、配布資料の確認を行った。資料１に修正がある場合は、12 月７日までに事務局まで連絡していただくこととした。

参加者の全ての意見を拾えないこともあるが、参加者の意見をまとめた冊子がつくられ、一般公開されるため、意見が無いものとされることはない旨を説明した。

2　まとめ方の説明

前回の振り返りを行ったあと、ファシリテーターから、提言のまとめ方及び提言書フォーマット（資料２～４）に反映された内容について説明を行った。提言のまとめ方の説明内容は以下のとおり。

- 今回は、資料２～４を比較し、提言に近づけていくための意見を出し合う。
- 今回（第５回）と次回（第６回）で今までの意見に漏れがないかを確認し、素案を作っていく。
- 第７回は文章になったものを確認していただくことになる。

（質疑応答）

参加者：今回の提言は、何年後を見据えているのか。

事務局：現在の基本計画は、令和３～８年度を対象としており、前期（令和３～５年度）・後期（令和６～８年度）で分けて、中間年度で見直しを行っている。今回は、令和６年度からの３年間に対し、区がどうなったら良いか、どう変えたら良いかを提言していただく。最終的にまとめるのは区だが、その材料をいただき、反映させていく。計画立案時から大きく変わるものもあるため、参加者は自由に意見を言っていただきたい。

参加者が資料２～４の内容を確認した結果、以下のとおり意見があった。

参加者：資料３の「自己責任という言葉をなくす」について、表現を整えた方が良い。

参加者：いじめ・引きこもりは、原因が様々で難しい問題であるため、資料４の記載内容だと、いじめ・引きこもりの解消は難しいと思う。実現に向けた課題や具体的な取組を厚くした方が良い。

参加者：資料２の港区の将来像の部分に、「モラル」と「道徳観」を入れた方が良い。

3　提言内容のブラッシュアップ

参加者の同意を得て、今回は「学校教育の充実」についてブラッシュアップを進めていくこととした。資料２について、項目別に参加者から意見を出し合い、資料に反映させた。

（１）計画最終年度末（令和８年度末）における港区の将来像

参加者：前回の「学校教育の充実」の提言と今回の資料２を比較すると、同様の内容になってしまうことが予測されるため、今回はより具体的で港区ならではの提言にできたら良い。

ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ：前回の提言は「探究学習」や「個性を伸ばす」が主で、今回は「お互いを思いやる優しさ」といった言葉が出てきており、違いはある。

事務局：将来像は抽象的なものであり、前回と同様になってしまうことはやむを得ないため、取組に変化をつけていけると良い。
参加者：内容は尊重しつつ、「教える」という姿勢から「個人の能力を伸ばすサポートをする」などに変えるなど、表現をアグレッシブな感じにアップグレードした方が、時代が進んだような印象を与える。また、港区色をもう少し出すと面白い。
参加者：港区らしさ（独自色）が出ていないような気がする。
参加者：前回の取組内容はどのくらい達成されているのか。
事務局：基本計画 377 ページを参照。まだ計画年度の途中であるため、今後達成状況をまとめていくが、可能な限り反映させている。
参加者：具体的な取組に、年限を記載してよいか。
事務局：書いていなくとも、令和８年度までの実現に向けて実施していく。

≪意見内容の修正箇所≫
　互いを思いやる優しさを持ち、安心して学校に通え、一人ひとりの子どもが個性を伸ばし生きる力を育む⇒「道徳観やモラルを習得し、互いを思いやる優しさを持ち、安心して学校に通える」及び「教えるだけでなく港区独自の先進的で主体的な学び、一人ひとりの子どもが個性を伸ばし生きる力を育む」

（２）踏まえるべき社会変化
　社会変化より、実現に向けた課題や施策の方向性等に時間を使った方が良いため、参加者の同意を得て省略。

（３）実現に向けた課題及び施策の方向性
　参加者によるディスカッション後、意見を出し合い、資料に反映させた。

○「モラル、道徳観」に関する意見
参加者：現代は、大人も子どもも命を切実に感じていない気がするため、「モラル、道徳観」の中に、命の大切さのような言葉も入れた方が良い。
参加者：「先生のゆとり不足」に違和感がある。
参加者：道徳教育が薄れている。
参加者：価値観が多様化しているから、道徳観が揺らいでおり、何が正しいことか分からなくなっているのではないか。
参加者：良いこと・悪いことは白黒つけなければいけない。
参加者：価値観が違うから、みんなで話し合って共有することが必要。
事務局：良いこと・悪いことは教えていく必要があるが、人によって考えが変わることもあることを教えていく必要もある。教えたことについてその理由等を自分で考えることも必要という方向性が共通事項ではないか。
参加者：正しい道徳観が分からないというのは違和感。
参加者：先生のゆとりに関することについては、「大人の価値観」に入れた方が良い。

≪意見内容の修正箇所≫

・　モラル・道徳観⇒子供のモラル・道徳観が薄れている
・　コミュニケーション能力の向上⇒対人関係、コミュニケーション能力の低下
・　「実現に向けた課題」に「価値観の多様化の理解が必要」及び「道徳教育が薄れている」を追加
・　「実現に向けた課題」に「命の大切さを知る」を、「施策の方向性」に「命の大切さをしり、」を追加
・　「先生のゆとり不足？」を「大人の価値観」に移動（「先生も共に学んでいく必要がある」）。
・　「施策の方向性」の「先生にゆとりをつくる」を、「大人の価値観」に移動。
・　「具体的な取組」の「事務作業や手続きの簡素化、ＩＣＴ化」及び「先生の教育、試験等、ＷＥＢでの研修、講演」を「大人の価値観」に移動。

○「大人の価値観」に関する意見
参加者：先生も一緒に学んでいく姿勢が表されていると良い。
参加者：前回の提言にないため、一歩進んでいる印象になった。
参加者：「個の尊重」は「自他への理解」に移動した方が良い。
参加者：「大人の価値観」の「施策の方向性」に「個を尊重する」が入っているため、「個の尊重」は「大人の価値観」に戻した方が良い。
参加者：「個の尊重」を「自他への理解」に戻すのであれば、大人が共に学ぶことを強調した方が良い。
ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ：何を学び直しますか。
参加者：ダイバーシティや多様性はいかがか。
（参加者同意）

≪意見内容の修正箇所≫
・　「大人の再教育、アップグレード？」⇒「大人の再教育、アップグレード？（新しい価値観）学びつづける必要がある」
・　「個の尊重」を「自他への理解」へ移動。
・　「先生も共に学んでいく必要がある」を追加
・　「保護者など、子どもに影響を与える周囲の大人に対し「個を尊重する」学び直しの機会を充実させる」⇒「子どもに影響を与える周囲の大人（保護者や先生）に対し、多様性を理解する学び直しの機会を充実させる」

○「自他の理解」に関する意見
参加者：様々な取組を実施していることを周知していく必要がある。
参加者：新しい世代を育てていくためには、当事者だけでなく、コミュニティ全体で風潮を作っていく必要がある。
参加者：情報の格差をあることが課題。
ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ：なぜ地域の交流・サポートが必要なのか。
参加者：核家族化により、家族以外の大人との交流ができていないから。
参加者：子どもは家族だけでは育てることができないから、地域でサポートしていく必要がある。
参加者：「自他の理解」という表現より、「コミュニティ全体での子育て」の方が良い。

事務局：こちらは参画と協働の推進に入れた方が良いのでは。（参加者同意）
≪意見内容の修正箇所≫
・　「実現に向けた課題」を、参画と協働に移動。

○「個性を伸ばす能力開発」
参加者：読書をして語彙力を高める必要がある。
参加者：「教育をする」というより、「サポートをする」ことが必要であり、課題である

≪意見内容の修正箇所≫
・　「教えるではなく、子供にサポートしていく」及び「読書が必要、語彙力がなくなっている」を追加

（具体的な取組）
意見を出し合い、資料に反映させた。

○「モラル、道徳観」に対する具体的な取組についての意見
ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ：もう少し取組を増やしていった方が良いと思うがいかがか。
参加者：「指導する」という表現より、「みんなで話し合う」方が良いのではないか。
参加者：「理解し合う」を入れた方が良い。
参加者：道徳を指導する・教える（教育に力を入れる）ことも必要で、話し合って理解するだけではないことを別項目として設けた方が良いと思う。「教育に力を入れる」、「話し合う」、「相互理解」、「子どもが主体的に」といった表現を入れた方が良い。
ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ：子どもたちで主体的に決めるということが必要か。
参加者：自分で決めたらルールを破ることができないため、子どもたちで決めることは大切だと思う。

≪意見内容の修正箇所≫
・　「～を指導する」⇒「教育に力を入れる」
・　「授業で、モラル・道徳・国語・コミュニケーションについて、こどもが主体的に話し合い、理解しあう。」

○「大人の価値観」に対する具体的な取組についての意見
ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ：「子どもとの対話を増やす」だと抽象的で区の事業として成立させるのが難しいため、もう少し肉付けした方が良いのではないか。
参加者：保護者が学校行事や地域行事に参加できる機会を増やした方が良いのではないか。
参加者：夜にＺＯＯＭで保護者と先生が語り合うような時間があると良い。日中の行事に参加できない保護者もいるため、保護者が参加しやすい時間や環境の工夫をした方が良いのではないか。先生が発信してくれるだけでも、家庭での親子の会話につながる。
参加者：家庭での時間を残し、「コミュニティ」に関する記載は削除で良いのではないか。
ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ：学校が「子どもと対話の機会を増やす」よう家庭に働きかけることは難しいのではないか。「ワークライフバランス」を整えることは難しいが、子どもとの関わりではこういうこと

が大切ですよと働きかけることはできる。（参加者の同意により、ワークライフバランスに関する記載は削除）

≪意見内容の修正箇所≫

・　「大人一人ひとりがゆとりをもって子どもに接するよう「ライフ・ワークバランス」を整え、家庭・コミュニティでの時間をなるべくとり、子どもとの対話の機会を増やす。」⇒「大人一人ひとりがゆとりをもって子どもに接するよう、家庭での時間をなるべくとり、子どもとの対話の機会を増やす働きかけ」

・　「保護者が学校行事に参加し、子供との交流の機会を提供していく。保護者が参加しやすい時間など、環境の工夫」を追加

○「個性を伸ばす能力開発」に対する具体的な取組についての意見

参加者：大学生だけでなく、大人も含めたキャリア教育があると良い。

参加者：ディスカッションなど「教えない教育」はどうか。例えば、算数の解き方について、まずは子どもたちで考えさせるなど。

参加者：子どもたちの時間（学級活動など）を増やしていくと良い。校外学習や出前授業が充実すると良い。

≪意見内容の修正箇所≫

・　「子供たちの話し合いやディスカッションを中心とした授業を強化していく」を追加

・　「ＩＣＴ関連で近隣のＩＴ企業のＯＢ等と協力して授業準備、ヘルプデスク設置等」⇒「ＩＣＴ関連で、近隣のＩＴ企業やＯＢ等、地域資源を活用していく」

・　「校外学習や出前事業の充実」を追加

・　「いろいろな経験を積んだ大学生の話」⇒「いろいろな経験を積んだ、大人や大学生と話をする機会、キャリア教育の充実」

４　その他

参加者から感想を述べたあと、事務局から次回開催日時（令和４年 12 月 15 日 18 時 30 分～）及び次回以降の進め方について説明を行った。

（参加者の感想）

参加者：幅の広い表現が出てきて良かった。

参加者：区職員の意見も聞けて頭の体操になった。

参加者：凝縮したものができると良い。

参加者：議論ができて良かった。次にも生かしていけたらと思う。

（閉会）

リーダーが第５回グループ会議の閉会を告げ、終了

以上

みなとタウンフォーラム
子育て・教育グループ（第７グループ）

会議録（第６回）

■開催日時・場所・出席者

日　時　：令和４年 12 月 15 日（木）18 時 30 分～20 時 30 分

会　場　：港区役所９階　914 会議室

メンバー：５名（３名欠席）

事務局　：対応部門関係課長３名（子ども家庭課長、保育政策課長、学務課長）、対応部門関係係長１名（子ども・子育て支援係長）、企画課グループ担当２名、サポートメンバー３名、委託事業者２名

■次第

（ 開 会 ）

1　第５回目の内容確認について

2　まとめ方の説明

3　提言内容のブラッシュアップ

4　その他

（ 閉 会 ）

■配付資料

資料番号	資料名
1	第５回グループ会議　会議録
2	テーマ２「保育・子育て支援サービスの充実」
3	テーマ３「子どもの健全な育成支援」
4	第６回投影資料

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画・港区実施計画
2	前回提言書

■会議要旨

（開会）

リーダーより、第６回グループ会議の開会宣言を行った。

1　第５回目の内容確認について

事務局より、配布資料の確認を行った。資料１に修正がある場合は、12 月 23 日までに事務局まで連絡していただくこととした。

2　今後の流れについて

ファシリテーターから、今日はテーマ２、３両方を議論することと、次回からは具体的な提言書の文言を話し合う予定との旨を説明した。

3　提言内容のブラッシュアップ（テーマ２）

参加者の同意を得て、最初にテーマ２「保育・子育て支援サービスの充実」についてブラッシュアップを進めていくこととした。資料２について、項目別に参加者から意見を出し合い、資料に反映させた。

(1)計画最終年度末（令和８年度末）における港区の将来像

参加者：病児保育の課題もある

≪意見内容の修正箇所≫

「困っているときに声をあげることが出来て、助けてあげられるまち」

⇒「困っているときに声をあげることが出来て、助けあえるまち」

（２）踏まえるべき社会変化

参加者：女性の社会進出は今に始まったことではない。

≪意見内容の修正箇所≫

「女性の社会進出」⇒「共働きの増加」

（３）実現に向けた課題・施策の方向性

参加者：「保育内容の充実」と「保育の質の向上」は重複する。

参加者：働き方改革の話は以前もあった。「働き方」の様なくくりの方が良いのではないか。処遇改善についての表現を入れたい。単純に待遇を上げれば良いわけではないが、基本的には大事。

参加者：「保育内容の充実」に待遇改善を含めて、３テーマでも良いのではないかと思う。

参加者：保育内容より利便性（交通アクセス、給食、英語等）を重視してしまっている保護者が多い。「サービス」を前面に出し過ぎるのは良くない。

参加者：「サービス」は商業的すぎるかもしれない。

参加者：巡回指導等、保育カリキュラムの中身を取り上げた方が良い。支援サービスと、保育内容は違う。保育園同士で切磋琢磨して、保育内容を充実させるような表現にしたい。保育内容が良いところに子どもが集まるようになるべき。

参加者：４テーマのままの方が良い。「サービス」より「保育内容の充実」が適切。

参加者：公立の保育園は全園で同じサービスなのか。
事務局：基本的には同様。
参加者：保育内容の充実が保育士・幼稚園教諭の負担になってしまう懸念がある。一番重要なこと（自然の中での活動等）は既に公立園では実現できている。
参加者：テーマ毎に主体がそれぞれ異なる。「子育ての悩みの相談」は親が主体、「保育内容の充実」は園側の在り方、「地域で子育て」は教える側の在り方。「地域で子育て」は前回と同様、参画と協働の推進に入れる方が良いかもしれない。
参加者：４テーマか３テーマかは悩ましい。あとは横文字が多い印象がある。
事務局：「待遇改善」⇒「保育に集中できる環境づくり」という表現も考えられる。
参加者：保育中の写真が見られるのはとてもありがたいが、保育士がより多忙になってしまう懸念がある。よりＩＴを活用しても良いのではないか。
参加者：「保育に集中できる環境づくり」はとても良い表現だと思う。また、保育士の配置人数が増えれば余裕ができる。
参加者：写真を撮る人を雇う等、人員の雇用形態を変えても良い。
参加者：子どもの一番輝くシーンを分かっているからこそ、業者よりも保育者の方が良い写真を撮れる。
事務局：良い取り組みは園をまたいで共有できるような環境が大切。
事務局：園長会等で公私立をまたいで取り組みの共有はしている。
ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ：「地域で子育て」は前回と同様、参画と協働の推進に入れるか。
参加者：「地域で子育て」は１つの課題軸としてあった方が良い。
事務局：「地域資源の活用」といった表現があると、より活用の幅は広がる。
参加者：病児保育の現状は。
事務局：病児保育室を設置しており、日々利用できる。基本的に空きがある状況ではあるが、感染症が流行るような状況になると、予約がいっぱいになる月もある。
事務局：ショートステイができる乳児院が２か所ある。ただ、自宅に来てくれるサービスを利用したり、里帰りしたりする人もいる。
事務局：「地域で子育て」について、複数の課題に当てはまるような事柄は、「参画と協働の推進」に移した方が全般的な強化になる。もちろん、一つの課題軸として残すべきものは残す。
参加者：具体的な文章があったほうがイメージしやすい。

≪意見内容の修正箇所≫
①子育ての悩みの相談
〇実現に向けた課題
・主体が鍵
〇施策の方向性

②保育内容の充実
〇実現に向けた課題
・保育内容よりも利便性が選ばれている
・各園が競争するのではなく、港区内の各保育園の質の向上を図る必要がある
・遊びを通じて学ぶ機会の強化

・保育園・幼稚園のサービスの見える化
〇施策の方向性
・「サービス」の表現は変える
・他の園の取り組みなどを共有し、各支所や保育園など合同で行事をやる予算を増やす
・幼児、病児保育等の受け入れを充実させる

③地域で子育て
〇実現に向けた課題
・参画と協働にもっていった方が良いのではないか
〇施策の方向性
・ビジネス・保育士のプロフェッションを生かして保育・子育てに参加
⇒それぞれの道のプロの力を生かす

④保育士・幼稚園教諭の待遇
〇実現に向けた課題
・働き方、忙しさの改善が必要
・待遇を改善した方が、保育士が集まる
・保育士にサービスを向上させると、負担が上がり待遇が大変になるのでは
・写真のＩＴ化
〇施策の方向性
・保育に集中できる環境にするために、ＩＴ等を活用し、先生や保護者の負担軽減

３　提言内容のブラッシュアップ（テーマ３）

次にテーマ３「子どもの健全な育成支援」についてブラッシュアップを進めていくこととした。資料３について、項目別に参加者から意見を出し合い、資料に反映させた。

（１）計画最終年度末（令和８年度末）における港区の将来像

参加者：「居場所があり」という表現は、現状まるで無いような印象を受ける。
参加者：フレーズが長い。
参加者：支援が必要な子どもはもちろん、みんなが安全・安心に暮らせるようになることが大切。
事務局：「個性を伸ばす」はテーマ１の学校教育分野でも使われている表現。

≪意見内容の修正箇所≫
子どもが個性を伸ばし、健康的で安全に過ごせる居場所があり、支援が必要な家庭が安心して暮らせるよう助け合う
⇒子どもが個性を伸ばして、健康的で安全安心に過ごせて助け合う
（支援が必要な家庭が安心して暮らせる）

（２）実現に向けた課題・施策の方向性

参加者：（ファシリテーター代読）引きこもりの原因は多様。保護者の考え方の変化が必要なこともある。また、地域に知られたくない家庭もいる。それよりも臨床心理士等の専門家に相談

できる体制の方が重要。

参加者：「いじめ・引きこもり」を１つの課題軸とするのは違和感がある。そもそもの要因は大人の価値観（こうなって欲しい・こうあるべき）にある。そのギャップがなくなれば、いじめ・引きこもりは究極的にはなくせるかもしれない。

参加者：「いじめ・引きこもり」は現実に起こっている問題であり、重要な課題として残すべき。

参加者：いじめ・引きこもり自体は現象。そもそもの原因は子どもの理解や、コミュニケーション不足。人と違う、劣っているという意識が根本にある。

参加者：相互理解が進んでも、いじめ・引きこもりがなくなることはないと思う。

ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ：「その他の課題」で残したい項目はあるか。

参加者：親・保育者の忙しさは「子どもの理解」にも含められる。他は削って良いのではないか。

ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ：いじめ・引きこもりの相談場所の現状は。

事務局：教育センター等で随時相談は受け付けている。

事務局：子ども家庭支援センターや各支所の福祉総合窓口で対応している。

参加者：「街ごとキッザニア」とは何だったか。

参加者：地域の人とお店屋さんごっこするようなイメージ。地域全体で子育てをしているようなまちの形。

≪意見内容の修正箇所≫

①子どもの理解

〇実現に向けた課題

〇施策の方向性

〇具体的な取組

②いじめ・引きこもり

〇実現に向けた課題

・引きこもりではなく、学び方が多様になっている

⇒削除

・保護者の支援が必要。相談先が分からない人がいる

〇施策の方向性

・実態が分かりづらい支援が必要な家庭へのケア。地域が見守りつながる

〇具体的な取組

・青少年育成委員や民生委員に気軽に参画できるように発信する

・直接保護者が相談先を利用しやすくする

③子どもの居場所が少ない

〇実現に向けた課題

・民間ビルの活用　⇒　民間ビルのスペースはあるが、入れない

〇施策の方向性

〇具体的な取組

・空いている遊び場や広場で遊べるように

・街ごとキッザニア　⇒　地域のお店等が子どもと関わる機会を増やし、地域で子育てをする

④その他の課題
⇒削除

4　その他

参加者から感想を述べたあと、事務局から次回開催日時（令和５年 1 月 12 日 18 時 30 分～）及び次回以降の進め方について説明を行った。

（参加者の感想）
参加者：言葉をつなげる難しさを感じた。
参加者：表にまとめ、吟味してやっていく作業は大変だった。
参加者：次回も頑張りたい。
参加者：頭の整理、勉強になった。
参加者：事務局も大変かと思うが、引き続きよろしくお願いしたい。

（閉会）

リーダーが第６回グループ会議の閉会を告げ、終了。

以上

みなとタウンフォーラム
子育て・教育グループ（第７グループ）

会議録（第７回）

■開催日時・場所・出席者

日　時　：令和５年１月 12 日（木）18 時 30 分～20 時 50 分

会　場　：港区役所９階　913 会議室

メンバー：６名（２名欠席）

事務局　：対応部門関係課長名３名（子ども家庭課長、学務課長、教育指導担当課長）、対応部門関係係長１名（子ども・子育て支援係長）、企画課グループ担当２名、サポートメンバー３名、委託事業者２名

■次第

（ 開 会 ）

１　第７回グループ会議の進め方について

２　提言書（案）について

３　その他

（ 閉 会 ）

■配付資料

資料番号	資料名
1	第６回グループ会議　会議録
2	子育て・教育グループ提言書（案）
3	提言にあたって（案）
4	第７回投影資料

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画・港区実施計画
2	港区基本計画策定に向けた提言書

■会議要旨

（開会）

リーダーより、第７回グループ会議の開会宣言を行った。

１　第７回グループ会議の進め方について

事務局より、前回の振り返り及び配布資料の確認を行った。資料１に修正がある場合は、１月 20 日（金）までに事務局まで連絡していただくこととした。

２　提言書（案）について

（１）前回の振り返り

前回の振り返りを行ったあと、ファシリテーターから今回の進め方の説明を行った。

ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ：資料２の提言書（案）のうち、右側のオレンジ色の表はメンバーのみなさまから事前にいただいた意見を反映させているので、これを確認していく。ホワイトボードに付箋で意見を記載してほしい。

（２）テーマ３「子どもの健全な育成支援」について

まずはテーマ３「子どもの健全な育成支援について」から始める。

＜付箋に記載された意見＞

〇将来像について

・　「支援が必要な家庭」⇒「子育て家庭」へ

・　「地域の伝統文化を重んじ誇りに思う」という文言を入れたい

〇社会変化について

・　「家族をめぐる変化し」⇒「家族の形態も変化し」

・　地域の伝統文化や特色の発信が薄い

〇実現に向けた課題について

・　「大人が子どもへの理解」⇒「大人の子どもへの理解」

・　「大人の子どもへの理解が不足している」⇒「大人の子どもへの深い理解が必要」

・　「母子」⇒「親子」に変更。母親に限定しなくてよいのでは。

・　「子どもが安心して遊べる場として、既存の公園も活用する」という表現を入れる。

・　「子どもへの思いが十分ではない」という表現を入れたい。

〇施策の方向性について

・　「大人の価値観を柔軟に変えていき」⇒「大人の考えを柔軟に変えていき」

・　「子どもの個性を理解する」⇒「子どもを理解する」（「個性」という表現は削除する。）

〇具体的な取り組み

・　全体的に現状の取り組みを「さらに」「現状以上に」のようにレベルアップする表現にしてはどうか。

・　「学校にリモートワークの場所を作る」という表現はどういうことか。
・　「教育・評価の手法をより個の特性を伸ばすように」「ＩＣＴの活用やコミュニティをオンライン・ＳＮＳでもつなぐ」といった文言を追加したい。
・　「子どもが安心して遊べる公園や広場を増やす」「民間ビルや公開空地も遊び場として利用できるようにする」旨を入れたい。

〇参画と協働の推進
・　「イベント」を「イベント行事」にしてはどうか。
・　「商業コミュニティ・企業のプラットフォームを活用する」という表現を追加したい。

（主な意見）
〇将来像について
ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ：将来像の欄で「支援が必要な家庭」を「子育て家庭」に変えた方が良いのではという意見があるが、いかがか。
参加者：その方が良いと思う。
参加者：地域の伝統文化を重んじるという表現を将来像の欄に入れたい。
参加者：学校も含まれるか。
参加者：伝統文化は、学校だけでなく、子育てに通ずるところがあるため追加したい。
ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ：将来像の中で「安心・安全に過ごせて助け合う」という表現が２回出てしまっている。
参加者：子ども・家庭・地域の３つの枠組みにまとめると良いかもしれない。
ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ：（参加者の意見を踏まえて）「地域の伝統文化を重んじながらも、子どもが個性を伸ばせるまち」「子育て家庭が安心･安全に過ごせて助け合う」の２つを将来像にするのはいかがか。
事務局：これだと学校教育に近すぎるのではないか。
参加者：地域の伝統文化の中で育成するといった表現にすれば、学校教育との差別化ができるのではないか。
参加者：地域社会の中で歴史文化に触れるといった表現にするのが良いのではないか。
事務局：今回のテーマは子どもの健全な育成支援なので、まず安全に暮らすことを第一にして、そこから、地域社会の中で港区ならではの歴史文化に触れて子どもが個性を伸ばす、という流れにしてはどうか。（参加者合意）
事務局：そうすると、付随する説明の文章の順番も変わってくると思う。

〇社会変化について
参加者：社会変化の中で、「子育て家庭を取り巻く状況や家族をめぐる変化し」という表現を「子育て　家庭を取り巻く状況や家族の形態も変化し」にした方が良いと思う。
参加者：良いと思う。
事務局：テーマ１の学校教育にも同様の表現が出てくる。
事務局：「家庭環境による学力格差も生まれてくる」という表現について、絶対とは言い切れないため、断定した表現ではなく「傾向がある」のような言い回しの方が良いかもしれない。
事務局：テーマ３で学力格差について触れなくてもよいのでは。
ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ：「家庭環境を取り巻く状況の変化により、教育の格差が生まれる場合がある」という表現はどうか。（参加者合意）

参加者：地域の伝統文化についての発信が弱いように感じる。「ワークライフバランス」などカタカナ　語が多いのが気になる。「家族や労働のあり方」という表現は硬い気がするので、「家族や働き方」のようにして良いのではないか。

事務局：事務局で対応する。

〇課題について

参加者：「大人が間違った価値観を子どもに押し付けている」という表現は断定的かつ否定的であるため、避けた方が良いのでは。

参加者：「大人が子どもを深く理解し、子どもの思いに寄り添う必要がある」といった柔らかい表現にしてはどうか。

参加者：「乳幼児時期の身体的、精神的、感情的成長の重要さの理解が不足している」について、不足しているという表現は断定的かつ否定的であるため、避けた方が良いのでは。

参加者：「十分ではない」くらいが良いのでは。

事務局：大人は理解しているけど時間が取れないという点で悩んでいる。

参加者：公開空地を遊び場として利用できるようにしたい。

ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ：遊び場の点は課題ではなく取組に入れるか今後検討する。

参加者：「既存の公園を活用」という文言が削除されてしまったので、もう一度挿入してほしい。

〇施策の方向性について

参加者：「大人の価値観を柔軟に変えていき、子どもの個性を理解する働きかけをする」というよりは「大人の考えを柔軟に変えていき、子どもをさらに理解する働きかけをする」にした方が良いと思う。

参加者：子ども自身を理解するというよりは、子どもに主体性を持たせて個性を伸ばすといった表現にしたい。

ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ：「子どもの主体性を尊重するように、大人が柔軟に対応する」にしてはどうか。（参加者合意）

〇具体的な取り組みについて

事務局：地域で空いているスペースを活用する点で、暫定保育室が例示されているが、暫定保育室は空きスペースでないので削除した方が適切。

参加者：暫定保育室を減らした場合はどのように活用していくか。

事務局：その都度、ニーズに応じて転換していく。

事務局：学校や保育園、寺社といった表現はあくまで例示であって、あらゆる場所という意味でとらえていただければ大丈夫。

参加者：例示は不要ではないか。（参加者合意）

参加者：「ＩＣＴやＳＮＳを活用して地域の人とオンライン上のコミュニティづくりをする」といった表現を入れたい。

参加者：時代に合った取り組みのような表現はどうか。

参加者：「学校にリモートワークの場所を作る」という文言があるが、いらないのではないか。

ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ：子どもと保護者の距離を近づける意味合いがあるのでは。（リモートワークのくだりは削除することで合意）

参加者：いじめへの取組について、「今以上に」「現状以上に」といった表現にしたい。
参加者：ひきこもりだけでなく、支援が必要な家庭全般についても扱った方が良いのでは。
事務局：学校教育にはひきこもりというカテゴリーはなく不登校という言い方をする。みなさまはどこをターゲットにするのか確認したい。
参加者：学齢期も入ってくると思う。不登校だと学校に限定されてしまう。
参加者：教育や評価の手法をより個の特性を伸ばせるようにしていきたい。具体的には学校の成績を　絶対評価にすることや、授業も学年によって一律の目標に達成しなければならないという縛りをなくす。
事務局：考えにはとても賛同できるが、区レベルでは修正できないので、提言としては難しいと思う。
参加者：学校教育は絶対評価ではないのか。
事務局：原則絶対評価であるが、入試に関わる部分は成績の審査会がある。
参加者：いじめなどの問題は社会全体の意識や評価の枠組みによるところが大きいように感じる。
事務局：研修会を拡大していくという提言と関連付けていくのが良いと思う。

〇参画と協働の推進について
参加者：情報が自分のところに届かないという課題がある。商業コミュニティや企業のプラットフォームも活用していくのが良いのではないか。
事務局：あらゆる媒体を活用していくといった表現にしてはどうか。
参加者：「家庭に発信していく」旨を入れる。

（３）テーマ２「保育・子育て支援サービスの充実」について

次に、テーマ２について見ていく。

（主な意見）
参加者：付箋ではなく、どんどん気づいた点を発言した方が良いのではないか。（参加者合意）

〇実現に向けた課題について
参加者：「命に直結しない個別の悩み」とあるが「命に直結しない」という表現はいかがか。
参加者：子どもの発達等の個別の悩みを相談できる窓口サービスが不足している。
参加者：「公立園と私立園との連携」といった表現があるが、「園」は入れなくても良いのではないか。
事務局：認可外保育施設に対しての訪問監督・指導を積極的にする必要があるという表現は、課題ではなく取組の方が良いのではないか。
参加者：「保育以外の雑務時間」の「雑務」という表現が引っかかる。
事務局：「保育以外の自己研鑽や教材準備の時間が取れるようにする」のようにすれば良いと思う。（参加者合意）

〇具体的な取り組みについて
参加者：「病気回復期にある子どもの保育の受け入れを充実させる」とあるが病気回復期に限定するのはいかがか。
事務局：「病児・病気回復期にある子どもの保育の受け入れのため、病児保育を充実させる」という

表現の方が良いかもしれない。

事務局：具体的な取り組みの（２）②は保育士の負担軽減の説明であるのに、保育士の配置基準の見直しという「保育の質の向上」の話題になってしまっている。また、港区は独自の配置基準を設けており、障害児加算や時間加算など既に保育士を厚めに配置している。現状の取組を評価したうえでこれを続けるというような表現にしていただけると助かる。

事務局：「港区独自の配置基準を続ける」という表現が適当かと思う。（「より子どもの安全と保育の質を担保するため」と例示を削除することで参加者合意）

〇参画と協働について

参加者：地域の方が積極的にボランティアに参加できるように、研修を簡素化させることは必要だと思う。

ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ：「研修」という文言は削除する。（参加者同意）

参加者：「ＮＰＯや地域団体」ではなく「地域団体やＮＰＯ」の順番にしたい。

〇社会変化について

参加者：「非婚化、晩婚化、結婚している女性の出生率低下」の「結婚している」という表現が気になる。（参加者削除で合意）

（４）テーマ１「学校教育の充実」について

時間がないため、テーマ１については各自持ち帰って次回確認する。事前にいただいた意見について触れる。

（主な意見）

参加者：港区らしさや斬新さは残しつつ、歴史も大切にしたい。伝統文化や地域性を重要視したい。また、考える力を育む表現を盛り込む。否定的な表現を減らし、肯定的に記載する。教えることを重要視する。

ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ：教えることを重要視するとはどういうことか。

参加者：子どもが考える（主体性を持つ）ことも大事だが、従来どおり教えるということも必要。

参加者：幼児教育でも同様のことが言える。主体的に学ぶための指導も必要。

３　その他

事務局から次回開催日時（令和５年１月 26 日（木）18 時 30 分～）及び次回以降の進め方について説明を行った。

（閉会）

リーダーが第７回グループ会議の閉会を告げ、終了。

以上

みなとタウンフォーラム
子育て・教育グループ（第７グループ）

会議録（第８回）

■開催日時・場所・出席者

日　時　：令和５年１月 26 日（木）18 時 26 分～20 時 45 分

会　場　：港区役所９階　912 会議室

メンバー：５名（３名欠席）

事務局　：対応部門関係課長名３名（子ども家庭課長、学務課長、教育指導担当課長）、対応部門関係係長１名（子ども・子育て支援係長）、企画課グループ担当２名、サポートメンバー３名、委託事業者２名

■次第

（ 開 会 ）

１　第８回グループ会議の進め方について

２　提言書（案）について

３　提言式について

４　その他

（ 閉 会 ）

■配付資料

資料番号	資料名
1	第７回議事録
2	提言書（完成版）（テーマ２＜社会変化除く＞、テーマ３）
3	提言書（案）（テーマ１、テーマ２＜社会変化のみ＞、提言にあたって）
4	みなとタウンフォーラム提言式について
5	提言式プレゼン資料（案）

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画・港区実施計画
2	港区基本計画策定に向けた提言書

■会議要旨

（開会）

リーダーより、第８回グループ会議の開会宣言を行った。

1　第８回グループ会議の進め方について

事務局より、前回の振り返り及び配布資料の確認を行った。

資料１に修正がある場合は、２月３日（金）までにメールにて事務局まで連絡していただくこととした。

2　提言書（案）について

資料３をもとに、既にいただいている意見も参考にしながら、改めて全員で意見交換し、修正を行った。

（１）テーマ１学校教育の充実について

①01　港区の将来像

修正前	修正後
（１）地域や大人が子どもたちに教えることの大切さは元より、港区独自の先進的な学びを展開することで、一人ひとりの子どもの個性を伸ばし、伝統文化を大切にする生きる力を育むまち	（１）港区独自の先進的な学びを展開することで一人ひとりの子どもの個性を伸ばすとともに、伝統文化を大切にする生きる力を育むまち
（２）道徳観や倫理観を身に着け、たくましさや優しさを持ち、安心して学校に通うことのできるまち	（２）地域や大人が道徳観や倫理観を教え、こどもたちがたくましさや優しさを持ち安心して学校に通うことのできるまち
●説明 ～子どもが主体的に学び、共同体を大切にし、一人ひとりの個性を尊重し合える社会の実現を目指す	●説明 ～子どもが主体的に学び、関係性を大切にし、一人ひとりの個性を尊重し合える社会の実現を目指す

（主な意見）

参加者：港区の将来像の提言内容「道徳観やモラル」を「道徳観や倫理観」に変更したのは、道徳とモラルが同じような意味になってしまうため。

参加者：（１）では、「港区ならでは」を出したいため、「伝統文化を大切にする」を追加した。

参加者：Ｄ欄「道徳観や倫理観を身につけ～」についてご説明いただきたい。

参加者：記載の通り。２つ意見があるのであれば、内容が反しない限り２つとも提言すれば良いと思う。

事務局：Ｃ欄に（３）として、多様性に関する記載を追加してもよいのでは。

参加者：ダイバーシティを教育に入れるという意味が分からない。

参加者：個性を伸ばすという方向性については同意する。

ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ：Ｃ欄の提言内容では、（１）で個性を伸ばす、（２）で道徳観や倫理観を身につけるという区分けにするのはいかがか。

（参加者同意）

参加者：D欄「共同体は負の意味もある」の意図も教えてほしい。
参加者：「共同体」という言葉の意味を調べたところ、血縁や地縁など様々な意味があることが分かった。もう少し具体的でわかりやすい表現にしたほうが良い。
参加者：共同性はいかがか。
参加者：もう少し具体性が欲しい。
参加者：学校や学年など？
参加者：そのとおり。人間関係や人との関係性とかの表現はいかがか。
（参加者同意）
ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ：モラルを倫理観に変更するのは同意か。
（参加者同意）

②03　実現に向けた課題

修正前	修正後
（記載なし）	（１）④国語力（読解、語彙、読書など）を向上させる国語教育が、今後ますます求められる
（３）③特別支援教育に関する教員の研修体制を整える。特別指導支援員と連携して教育効果を上げ、子どもの個性を伸ばしていく	（３）③支援を要する子どもの増加傾向に対応する必要がある

（主な意見）
参加者：（２）①今でも多様性を尊重することはできているが、さらに強化する必要がある。
（参加者同意）
参加者：（３）③支援が必要な子供の支援の強化が必要と思ったため、「特別指導支援員」を強調したかった。
参加者：「特別指導支援員」という名称はあるか。「支援員」という表現にした方が包括性があって良い。
（参加者同意）
事務局：（３）③は、今のままだと具体的な施策になってしまうため、（３）③のように考えた背景を教えてほしい。
参加者：支援を必要とする子どもは増えているが、支援は不足しているため。
参加者：支援が必要な子どもに対する意識・支援への機運が高まっている。
参加者：支援が必要な子どもが増加傾向にあることは追加してほしい。
（参加者同意）
参加者：特別支援教育に関する教員の研修については、05 具体的な取組に移動させるか。
（参加者同意）
参加者：（４）も実現に向けた課題ではなく、05 具体的な取組ではないか。
事務局：具体的な取組にも同様の記載があるため、（４）は具体的な取組に移動し、議論するのはいかがか。
（参加者同意）
参加者：「国語」に読む力や理解する力など具体性を持たせたほうが良い。

参加者：語彙力や理解力が必要である。
参加者：国語力という言葉で包括するのはいかがか。
参加者：表す力や想像する力も必要
参加者：国語だと広い意味がある。もう１つ「表現力」を入れて、（）書きで具体的な記載をした方が良いのではないか。
参加者：（）内の言葉が多すぎるため入れたくない。
参加者：「国語」のみだと曖昧さが残る。
参加者：学校教育の「国語」だから定義づけは問題ない。
参加者：国語や国語力、国語教育など様々な表現が出てきているため、統一した方が良い。
（参加者同意）
参加者：表す力や想像する力はＡＩに代わらないものだから、重要視すべき。
参加者：追加した方が良い。
（参加者同意）
ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ：これ以外の「国語」の表現についても、同様に変更してよろしいか。
（参加者同意）

③05　具体的な取組

修正前	修正後
（１）道徳観・倫理観やコミュニケーション力を学ぶことのできる教育を充実させ、生きる力を育む教育を充実させる 【追加】教えることを再認識し、道徳倫理・国語・コミュニケーション等について様々な教育活動の中で学ぶ機会を増やす	（１）教えることの本質を再確認したうえで、道徳倫理・国語・コミュニケーション等について様々な教育活動の中で学ぶ機会を増やす
（記載なし）	（１）④国語教育を更に強化していく（読解、語彙、表現力、読書など）
（２）③教員の教育（研修・試験・講演参加等）	（２）③教員の学ぶ意識を醸成し、機会や時間を増やす（研修・試験・講演参加等）
（４）①教えることを再認識し、子供の能力、個性を活かすため、授業の単元や内容によっての習熟度別学習を更に推進する	（３）①子供の能力、個性を活かすため、授業の単元や内容によっての習熟度別学習を更に推進する
03　実現に向けた課題（３）③及び（４）に記載あり	（３）⑤支援を要する子供の増加傾向に対応し、教員の研修や、支援員の更なる増加・連携をする

（主な意見）
ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ：04 施策の方向性と 05 具体的な取組は連動しているため、まずは 05 について議論したいがいかがか。
（参加者同意）
参加者：（１）【追加】「教えることを再認識し～」の部分について、課題と対応させたほうが良い。
参加者：まずは基本を教えないと自分で考えることもできないため、追加した。教えることが欠け

ている（できていない）というより、教えることの重要性を再認識したほうが良いと思う。

参加者：誰が教えることを再認識するか、教員など主語を入れたほうが良い。テーマが学校教育であるため、「大人」などざっくりしないほうが良い。

事務局：学校では主体的に学ぶことを必要としている。教えることも自分で考えることもバランスよく教えることが必要であると考えている。

参加者：そのとおり。

参加者：「教えること」だと、自分で考えるということがなく教える一方な印象がある。

参加者：教えるということの本質を再認識でいかがか。

（参加者同意）

参加者：幼児期も同様。教えることの中身（本質）を再確認したほうがよい。一方的に教えることが教えることではない。

（参加者同意）

参加者：（１）【追加】にある「国語」について具体的に教えてほしい。

参加者：国語を教えないと、文章の理解につながらない。国語（日本語）ができないと外国語の理解につながらない。

参加者：（１）①と②は冗長な部分があるため、表現をまとめたほうが良いのではないか。

（参加者同意）

参加者：（４）①「教えることを再認識し、」は前段で記載したため削除したい。

ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ：03　実現に向けた課題（３）③及び（４）を追加した方が良いか。

（参加者同意）

④06　参画と協働

修正前	修正後
（２）②教えることの重要性を認識しながら、子供に更に寄り添い、共に学び成長していくような教育の推進	（２）②子供に更に寄り添い、共に学び成長していくような教育の推進

（主な意見）

参加者：前段の話からすると、（２）②「教えることの重要性を認識しながら、」は地域社会に関するこの部分で記載しない方が、統一性があり良いと思う。

（２）テーマ２子育て支援サービスの充実について

①02　踏まえるべき社会変化

修正前	修正後
（１）家族や労働のあり方、女性の就労ワーク・ライフ・バランスの変化、～	（１）家族のあり方や働き方の変化、女性の就労ワーク・ライフ・バランスの変化、～
（記載なし）	（６）高齢者の孤立が増加している。

（主な意見）

参加者：（１）は「家族のあり方や働き方の変化」の方が分かりやすい。

事務局：テーマ３子どもの健全な育成支援の 02 踏まえるべき社会変化も表現を合わせるのはいかがか。

（参加者同意）

参加者：（６）として高齢者が増加していることも社会現象として入れたほうが良いのではないか。
参加者：子育て支援に関するグループであるため、入れなくても良いと思う。高齢者グループにも入っていると思うが。
事務局：06 参画と協働（１）③等で「地域」と記載があり、その中には高齢者も含まれる。そのため、02　踏まえるべき社会変化に（６）として高齢者の記載を追加しても良いかもしれない。
参加者：06 に高齢者を追加したい。
（参加者同意）

②04　施策の方向性
（主な意見）
参加者：Ｄ欄に記載した通り、ＩＴに限らず、本来の目的である効率化を追加したほうが良いのではないか。

（３）提言にあたって

事務局から、「この提言によって～」の部分については、それぞれの思いをうかがったうえで、それらをまとめ、提言式の中でリーダーに代弁していただきたい旨の発言があり、各参加者が実現したい思いやタウンフォーラムに参加した理由等を発表した。

事務局から、すべての意見を反映することはできないが、できる限り反映できるよう努めるとの発言があった。

（参加者の意見）
参加者：広い視野で考えなければいけないことを学んだ。地域をはじめ、社会全体で心豊かな子育てができるようにしたい。
参加者：過去や現在に縛られず、未来に必要とされる人材を輩出できる勇気あるまちにしたい。
参加者：学校の先生が子どもと向き合うことができるよう、先生の働き方改革を行ってほしい。また、すべての子どもが安心して自分の力を発揮でき、地域全体で支えあうまちにしたい。
参加者：さらに学校教育を充実させ、未来を担う子どもが立派に健やかに育っていけるように、地域全体で支えていけることを願っている。
参加者：平等に格差なく育つことができるまち、子どもたちが周囲から見守られ、安心して過ごすことができるまちにしたい。

３　提言式について

事務局から、資料４及び資料５について説明を行った。提言式はリーダーが発表することで参加者から同意を得た。

４　その他

参加者が感想を述べた。

（閉会）

リーダーが第８回グループ会議の閉会を告げ、終了。

以上